

恵比須屋市右衛門出版・売弘書目稿（附鐸舎蔵板・製本書目）

青山 英正

はじめに

本稿は、近世京都の書肆恵比須屋市右衛門の関与した出版物を年代順に掲出したものである。

恵比須屋市右衛門は、京都の呉服商および両替商であった恵比須屋島田八郎左衛門家の一統に列なる城戸家三代が営んだ店であり、書肆としての活動が確認できるのは、寛政十二年から元治元年までである。

京都黒谷の浄土宗金戒光明寺塔頭である西住院の過去帳『ゑびすや嶋田一統霊名簿』によれば、次の法号を持つ者が歴代の市右衛門を名乗った（西住院主戸川隆博氏のご教示による）。

一誉品光恵秀禪定門 寛政十二年八月二十六日没

定誉戒空恵範禪定門 弘化二年九月二十一日没

接誉恵嶽禪定門 慶応二年五月二十一日没

このうち、二代目が本居宣長門人として知られる城戸千楯であり、三代目はその養子千屯である。恵比須屋市右衛門家が錦小路通室町西入北側中程に入居したのは寛政二年六月であったが（天神山町文書。京都市歴史資料館マイクロフィルムによる）、ちょうど初代の没した年に、同家は出版活動を開始した。おそらく、二代目市右衛門すなわち千楯は、一家を支えてゆく生業を、自らの好む学問とその人脈を生かすことのできる書肆経営に求めたのだろう。書肆恵比須屋市右衛門は、この千楯と千屯との二代にわたって営まれた。

千楯が、恵比須屋市右衛門の名跡を養子千屯に譲ったのは、天保三年二月である（『京都書林行事 上組重板類板出入済帳』文久三年三月八日条）。その際、店舗は寺町通蛸薬師下ルに移し、それまでの店舗は隠居宅とした（天保三年）十一月三日付伊東颯々宛千楯書簡、拙稿「伊東颯々宛城戸千楯書簡三十八通——翻刻と解題」『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科』二〇号、二〇一二年三月）。三代目千屯の評判は必ずしも高くなく、千楯と深い交友のあった藤井高尚でさえ、「千楯と違、今の市右衛門八、急成事ヲモ、一二月も捨置候事共時々有之、義門なども大二憤り候事ありき」（天保六年七月二十二日付清水宣昭宛藤井高尚書簡、飯田正一「藤井高尚書簡集（三）」『国文学研究』第五七号、一九七五年十月）と非難しているほどであった。加えて、折からの不作と物価高騰の打撃も受け、新板からの撤退（天保九年九月十四日付清水宣昭宛藤井高尚書簡、飯田正一「藤井高尚書簡集（四）」『国文学研究』第五八号、一九七六年二月）を余儀なくされる。

管見のかぎり、出版物の奥付等に恵比須屋市右衛門の名が見出せるのは、文久元年冬の刊記を持つ山田梅東著

『四時遊人必得書』が最後である。また、恵比須屋市右衛門の活動を示す最下限の記録は、『京都書林行事 上組重板類板出入済帳』元治元年九月条である。これは、禁門の変による類焼被害の把握とそれに対する方策について会談を持つために、本屋仲間行事から各書肆に呼び掛けた通達であるが、千屯は不参加だった。大火によってあるいは健康を損ねたのか、千屯はその後二年足らずで死去する。そして、恵比須屋市右衛門の名は、以降の書林仲間の諸記録に見られなくなる。千楯の著書『ふるの山ぶみ』の改訂本『新撰ふるの山ぶみ』（明治十七年刊）の奥付には、千楯の相続人として「滋賀県平民 城戸八尾」の名が記載されている。明治以降、錦小路通室町西入の土地が他人の所有に帰したことは前掲の天神山町文書によって知られるが、寺町通蛸薬師下ルの土地も、おそらく慶応二年に千屯が没した後に手放したのであろう。また、「八尾」とは女性の名前らしく思われるから、跡継ぎの男子も絶えたものと推測される。

恵比須屋が活動した六十五年間で、板元あるいは売り弘めとして関与した出版物は、合わせて少なくとも一三〇点超を数える。本稿では、これらを年次順に掲出した。

また、千楯と彼を取り巻く人々による文芸および出版活動を総体的に捉えるため、京都宣長門下の歌文サークルで千楯が主宰した鐺舎の蔵板書および製本書も附録として掲出した。

上田秋成や小沢蘆庵といった和学者を始めとする十八世紀後半の上方歌壇や、十九世紀の日本各地に広く展開した平田派に関する研究にはすでかなりの蓄積がある。しかしながら、十九世紀前半の京都における宣長門人の活動については、十分に検討されたとは言いがたい。とりわけ千楯は、平田篤胤の鐺舎での講義を阻止した排他的な人物としてのみ位置づけられることが多く、その鐺舎についても、「師系にこだわらない自由な気風」(藤井芙紗子「藤井高尚と鐺屋——後期国学の一断面」、『国語国文』第四六卷十二号、一九七七年十二月)が評価される一方で、「文雅のみに終始した(中略)歌会中心の平凡なものになってしまった」、「実力のある歌人を擁していなかった」(同上)といった類いの低評価が常に与えられてきた。

なるほど千楯の学識は篤胤に遠く及ばず、詠歌の実力も同時代の香川景樹に比べて見劣りすることは否定でき

ない。しかし、松坂の本居宣長を京都に迎え入れたのみならず、伊勢の荒木田久老、備中の藤井高尚、若狭の義門といった各地の和学者と交流を重ね、歌学・古道学に限らない幅広い分野にわたる彼らの著作を出版して世に知らしめたことの意義は、決して軽視できるものではない。京都という文化の中心地にあつて、千楯は各地に点在する和学者たちの交流の結節点となり、また彼らの斬新な言葉を世に発信する役割を果たしたのである。

こうした千楯の活動の意義を理解するには、従来のように思想内容や詠歌の優劣を検討するのみでは不十分であろう。本稿は、城戸千楯(恵比須屋市右衛門)を軸に、近世後期・幕末の和学を人々の交流および出版活動という観点から捉え直す試みの一環であり、まずはその基礎資料として、恵比須屋市右衛門の出版活動の全容を明らかにしようとするものである。

【附記】本稿は、二〇二二年度科学研究費補助金・若手研究(B)「幕末国学者の出版と文学活動——城戸千楯(京都書林恵比須屋市右衛門)の研究」(研究課題番号23720120、研究代表者青山英正)による研究成果の一部である。

凡例

- 一、本稿は、恵比須屋市右衛門の出版物の一覧である。
- 一、所見本の見返しや奥付等に恵比須屋市右衛門の名が見られるもの、書名が恵比須屋の出版広告に掲載されているもの、本屋仲間の記録などから恵比須屋が出版に関与したことが推定できるものは、すべてこれを掲載した。ただし、出版広告や記録などに記載されていても恵比須屋が実際に出版に関与したかどうかが現存伝本によって確認できなかったものや、逆に恵比須屋の名が記された奥付を持つ伝本が現存するもの、出版広告や記録ないし他の伝本などから恵比須屋の関与が裏づけられなかったものは、行頭に▲を付した。
- 一、配列は、刊年順とした。ただし求板本は、求板の年次に抛った。その際、括弧内に刊年（初印年次）を掲げた。
- 一、恵比須屋市右衛門の出版物以外に、鐸舎の蔵板書および製本書計十三点も、附録として末尾に掲載した。
- 一、著者名・書名の表記は、主に「古典籍総合目録データベース」に抛った。
- 一、書名の下に、書型・冊数・大まかな分類を記した。

- 一、書誌事項は、刊行者・刊行時期を示す要素、すなわち、見返し、序跋文、刊記などを示すことを旨とし、それ以外は適宜省略した。
- 一、割り書きおよび角書きは「 」と表記した。
- 一、改行は「 」と表記したが、書肆の所在地と書肆名の間には一々入れなかった。
- 一、序跋文からは、年次、筆者等を抜書した。
- 一、恵比須屋市右衛門の出版広告のうち、頻出するもの四点についてはあらかじめ左に掲げ、それぞれ出版広告A～Eとし、【広告】の項に掲げた。ただし、各書目の説明文は省略した。それ以外の広告については、煩雑にならない程度にその内容を記した。
- 一、刊記は、刊行者・刊行時期を示す要素を採録し、またその位置を記した。ただし、刊記のうち、特に奥付刊記については【奥付】として別項を設けた。
- 一、所見本は一点のみを記し、適宜請求番号を付した。
- 一、これまでの調査で判明した同板の早印本ないし後印本があれば、恵比須屋市右衛門の出版物をめぐる板権の移動を知る手掛かりとなる範囲で掲載し（ただし、明治刷りは除く）、所見本一点を記した上で、おおむね

印次順に配列した。

一、三都の書林仲間記録などに当該本に関する記述があれば、必要に応じて簡潔に記した。その際、次に挙げる資料名は以下のように略記した。

京都書林行上組諸証文標目 || 京都証文

同上組濟帳標目 || 京都濟帳

同板行御赦免書目 || 京都赦免

同上組重板類板出入濟帳 || 京都重板

出勤帳 (大坂) || 大坂出勤

買板印形帳 (同) || 大坂買板

図書板木目録 (同) || 大坂図書

寛政二年改正板木総目録株帳 (同) || 大坂板木 (寛

政)

文化九年改正板木総目録株帳 (同) || 大坂板木 (文

化)

開板御願出扣 (同) || 大坂開板

割印帳 (江戸) || 江戸割印

一、字体は、原則として通行の字体に改めた。

一、適宜、備考を二字下げで記した。

恵比須屋市右衛門出版広告

A「蔵版和書目録 明学堂 文化六年」〇・五丁計十点

刊記と同丁に印刻された広告ゆえ、文化六年のものであることは動かない。

「蔵版和書目録 明学堂 / 契沖阿闍梨詠 六々歌人賛

全部一冊 / 加茂真淵翁著 歌意考 全部一冊 文意考

同 / 賀茂季鷹県主校正 唐ものかたり 全部二冊 / 同県

主関 雁乃行かひ 全部一冊 / 松屋大人作 おくれし鷹

全部一冊 追彫 / 賀茂季鷹県主校訂 万葉集類句 全

部三冊 / 松屋大人著 消息文例 全部二冊 / 同大人著

佐喜草 全部一冊 / 参議佐理卿書 海陽帖 正面摺 全

部一帖 / 賀茂季鷹県主校正 とりかへはや物語 全部四

冊 追彫 / 文化六年己巳春三月 皇都書林 錦小路通室

町西江入北側中程 恵比須屋市右衛門」。

【所見本】『唐物語』(文化六年刊) 東京都特別買上三八

二。

B「明学堂和書目録 文化十二年頃」一・五丁計二五点

文化十二年刊『消息文梯』が掲載され、文政元年刊

『伊勢物語新釈』が「追彫」とされること、また、

広告Cには掲載される文化十三年刊『校正』菅家万葉集』および同十四年刊『万那備能広道』が掲載されていらないことなどから、文化十二年頃と推定される。

「明学堂和書目録 国学書林 京師錦小路通室町西へ入北側 恵比須屋市右衛門／松屋大人著 消息文例 全部二冊／同大人著 佐喜草 全部一冊／同大人著 日本紀の御局の考 全部一冊／同大人作 松屋文集初篇 全部二冊 後篇追々出来／賀茂季鷹県主校 鷹の行かひ 全部一冊／松屋大人作 おくれし鷹 全部一冊／賀茂季鷹県主校正 唐ものがたり 全部一冊／同県主校正 取かへばや物語 追彫 全部四冊／同大人作 ひきものゝさため 全部一冊／同大人作 伊勢物語新釈 追彫 全部六冊／同大人作 浅瀬のしるへ 追彫 全部一冊／賀茂季鷹県主校正 万葉集類句 全部一冊／同県主作 富士日記 全部一冊／契沖阿闍梨詠 下河辺長流評 六々歌人賛 全部一冊／聴雨庵蓮阿大人輯 消息文梯 小本 全部一冊／賀茂真淵翁著 歌意考 全部一冊 同 文意考 全部一冊／伴蒿蹟大人著 訳文章噺 全部二冊／松下見林翁著 前王廟陵記 全部二冊／貝原先生著 増補

和字解 小本 全部一冊／聴雨庵蓮阿大人編 仮名用格 中本追彫 全部一冊／古注 百人一首増注 全部四冊／古注 枕草子傍註 全部五冊／松屋大人著 枕草子新釈 追彫 全部五冊／壺井鶴翁先生著 源氏物語男女装束抄 全部三冊／参議佐理卿筆跡 海陽帖 正面摺 全部一帖。

【所見本】『松屋文集』（文化十一年刊）高山郷土館。

C「幸之倉和書目録」文化十四〜文政元年頃 二丁計三五点

前半一・五丁分は広告Bと同板。ただし、冒頭の「明学堂」を「幸之倉」に彫り替えたものが多く見られる（「明学堂」のままのものは、たとえば国会本『ひきものさため』がある）。年代は、文化十四年刊『万那備能広道』が掲載される一方、文政元年刊『伊勢物語新釈』は「追彫」のままであることから推定。

（一・五丁分省略、二丁ウより）「松屋大人著 大祓詞後々釈 追彫 全部一冊／同大人著 松の落葉 近刻 全部冊数不限／日本風土記 全部二冊／八雲御抄 全部六冊／栄雅読方 和歌道しるべ 小本 全部一冊／官職難義 全部一冊／河瀬菅雄大人補 増補和歌道しるべ 小

本 全部四冊／契沖阿闍梨標注 賀茂季鷹県主補考〔校正〕菅家万葉集 全部二冊／和歌ちまたのしるべ 折本一帖／故鈴屋翁門人紙魚室主人著 万那備乃広道 全部一冊。

【所見本】『消息文例』（文化二年刊）函館市。

D 『幸之倉和書目録』文政五（同十二年頃）二丁計三五点

広告Cと同板ながら、広告Cで「追彫」とされていた書目のうち、文政元年刊『伊勢物語新釈』、同二年刊『浅瀬のしるべ』、文政五年刊『大祓詞後々釈』から「追彫」の字が削られたもの。一方、文政十二年刊『松の落葉』は「近刻」とされたまま。

【所見本】『さき草』（文化三年刊）筑波大。

E 天保七（十二年頃）〇・五丁計十点

千屯への名跡譲渡、店舗移転後初めての広告で、天保七年刊『山口栗』が「既刻」として掲載され、同十二年刊の『玉の緒くりわけ』が「追刻」とされる。

「山口栗 既刻／友鏡底廻影 追刻／詞の道しるべ 同／奈末之奈 同／類聚雅俗言 同／さし出の磯 同／磯のす崎 同／月草 同／於乎軽重義 同／玉の緒くりわけ 同／製本所 寺町通蛸葉師下ル町恵比須屋市右衛

門」。

【所見本】『月なみ消息』東京都加賀。

恵比須屋市右衛門出版・売弘書目

1 契沖 六々歌人贊 寛政十二年刊 大本一冊 歌集

【序】「寛政十二年葉月都加茂河辺のやとりにするす／従四位下荒木田神主久老」【跋】「下河辺氏／長流注」【刊記】

「寛政十二年申九月発行／京書林 錦小路通室町西 恵比須屋市右衛門」（跋文末尾）【書袋】「契沖阿闍梨詠／下河辺長流評」／「六々」歌人贊 全／五十槻大人校訂 明学堂梓」。

【所見本】バークレー三井。

【諸本】後印本①（文化十二年頃印） 前掲刊記の後に広告B「明学堂和書目録」を付す（林田良平八二一八一〇）。

後印本② 前掲書袋と同板の見返しを付す。ただし「明学堂梓」という文字が削られ、また前掲刊記のうち、「京書林」以下が削られる。その上で、別の奥付「御書物所 前川文榮堂 大阪心斎橋通北久宝寺町河内屋源七郎」

が加えられる(旧大阪女子大)。【後印本③】刊記なく、巻末の蔵板目録に「書林 吉文字屋市兵衛蔵版」とある(林田良平八二三四一三)。

2 藤原佐理 海陽泉帖 寛政十二年序刊 折本一帖
法帖 正面摺

【序】「寛政庚申端午ノ右近衛大将藤原愛徳題」【奥付】「皇都書林 明学堂」。

【所見本】パークレー三井。

3 賀茂真淵 歌意考 寛政十二年序刊 大本一冊 歌学

【序】「寛政十二年ふみ月從四位下荒木田神主久老」【刊記】「五十槻園蔵板」(本文最終丁(十五才))

【所見本】鳥取県。

鳥取県立図書館本の最終丁(十五丁ウエ)に「エ市」の捺印あり。

4 賀茂真淵 文意考 享和二年刊 大本一冊 和文

【序】「寛政十二年神無月あらし田神主久おゆ」【奥付】「五

十槻園蔵板ノ享和二年戌正月発行ノ書林 江戸 須原屋 善五郎ノ浪速 大野木市兵衛ノ京都 城戸市右衛門ノ同 林安五郎」。

【所見本】パークレー三井。

5 賀茂季鷹 かりの行かひ 享和二年刊 大本一冊
消息

【序】「享和元年四月廿日あまり二日 賀茂季鷹しるす」

【跋】「拜志茂樹」【奥付】「享和二年首夏発行ノ書肆 皇都錦小路通室町西城戸市右衛門ノ同 新町通御池南林安

五郎」。

【所見本】大阪市大森。

【諸本】【後印本①】(文政五ノ十二年頃) 前掲奥付の前に、広告D「幸之倉和書目録」を付す(久松国夫)。【後印

本②】見返し「賀茂季鷹県主関ノ馬の行かひノ此書はか

もの真ぶちの翁をはじめ其名高く聞え給ふ諸君たちのせうそこをあつめ初学びのふみかき給はんたよりとてかく

梓にし侍るなりノ皇京書肆 明学堂。また、前掲奥付と同板の奥付末尾に「大阪心斎橋通り順慶町北ノ入半丁入

河内屋勘助」と加える(弘前市)。

【記録】〈江戸割印〉享和二年五月、板元〓夷屋市右衛門、
売出し〓須原屋伊八。

▲6 富永仲基 出定後語 享和二年印（延享元年序刊）

大本二冊 和学

【序】「延享元年秋八月／富永仲基識」【奥付】「享和二年
首夏発行／書肆 皇都錦小路室町西城戸市右衛門／同
新町通御池南林安五郎」。

【所見本】国会亀田。

【諸本】後印本①（文化二年）〓奥付「旧刻延享二年／
補刻文化乙丑／書肆 江戸日本橋通三丁目前川六左衛門
／名古屋本町七丁目片野東四郎／大阪心齋橋通南一丁目
松村九兵衛」。

【記録】〈大坂板木（文化）〉「敦九」。

奥付は5『かりの行かひ』の流用。

7 藤井高尚 消息文例 文化二年刊 大本二冊 消息

【序】「本居宣長」【凡例】「吉備津宮々人長門守従五位下
藤井宿禰高尚」【跋】「寛政十二年九月二日／吉備国阿宗
の里人／鳥越常成」【刊記】「松乃屋藏板」（跋文末尾）【奥

付】「松乃屋大人述／佐喜艸一冊近刻／此書は哥のはし書
のかきやうこころ得等をくわしくとき教たる書也／文化
二乙丑夏／書林 京都錦小路通室町西蛭子屋市右衛門／
大阪本町四丁目奈良屋長兵衛／同心齋橋通南本町南江入
河内屋儀助」。

【所見本】国文研（ヤ五・一〇三）。

【諸本】後印本①（文化十四／文政元年頃）〓前掲奥付
の前に、広告C「幸之倉和書目録」を付す（函館市）。後
印本②〓前掲奥付から「大阪本町四丁目奈良屋長兵衛」
を削り、「大阪心齋橋通北久太郎町少シ北へ入ル河内屋喜
兵衛」に入れ木で訂正（国文研ヤ五・一〇二）。後印本③
（嘉永元年頃力）〓後印本②の奥付の前に、「積玉圃（〓
河内屋喜兵衛）藏書目録」（備字例）〓「大和物語抄」
を付す（金沢市藤本、年代は目録掲載書目のうち「みあ
れの百くさ」が嘉永元年刊であることから推定）。後印本
④（嘉永四年頃力）〓後印本②の奥付の前に、「積玉圃藏
書目録」（真珠之船）〓「古々路乃種」を付す（白杵市）
（掲載書目のうち「古言訳解」が嘉永四年刊であること
から推定）。後印本⑤〓別の奥付「須原屋茂兵衛／同 伊
八／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／岡村

庄助／須原屋新兵衛／和泉屋吉兵衛／吉野屋仁兵衛／永樂屋東四郎／菱屋藤兵衛／菱屋平兵衛／河内屋喜兵衛板（書肆所在地省略）に差し替え。

【記録】〈大坂図書〉文化二年二月、売弘人＝奈良屋長兵衛、当時板元＝河内屋喜兵衛。〈大坂板木（寛政）〉「奈良相合 河義」。〈大坂板木（文化）〉「相 奈良○河武 加善 河喜」。〈江戸割印〉文化二年夏、板元＝奈良屋長兵衛、売出し＝前川弥兵衛。

8 賀茂季鷹 万葉集類句 文化三年刊 大本三冊 歌学

【凡例】「文化二年九月 賀茂季鷹」【柱刻】「義慣亭蔵」【奥付】「文化三年丙寅初春刻成／江戸書林 松本平介／北沢伊八／京都書林 出雲寺文二郎／林伊兵衛／野田藤八／田辺作左衛門／林宗兵衛／城戸市右衛門／林安五郎」。

【所見本】国文研長井。
【記録】〈江戸割印〉板元＝田辺作左衛門、売出し＝松本平助。〈大坂板木（文化）〉「相 柏源 京 河茂 河新」。

9 藤井高尚 さき草 文化三年刊 大本一冊 歌学

【序①】享和の三年しもつきのすゑつかたすみた河のいほりにやとりてたちはなの千蔭／しるせり」【序②】「本居大平」【奥書】「享和の三とせといふ年のきさらぎのやうかの日に書をへぬ／吉備の山人／藤井高尚」【奥付】「松屋大人著 消息文例 全部二冊 此書は雅言の消息文かくへきやうをいにしへの例を引いて、委く教たる書なり／文化三年丙寅三月発行／浪華書林 奈良屋長兵衛／河内屋儀助／京都書林 蛭子屋市右衛門」。

【所見本】架藏本了。

【諸本】【後印本①】（文政五く同十二年頃）＝前掲奥付の前に、広告D「幸之倉和書目録」を付す（筑波大）。【後印本②】（文政七年頃）＝前掲奥付の前に、「岡田種玉堂（＝河内屋儀助）蔵板書目」（「神代巻」く「今様発句集」）を付す（架藏本イ）（掲載書目のうち、『黄葉夕陽村舎詩後編』は文政六年、「近江国大絵図」は同七年刊。また、河内屋儀助は、文政八年十月までは本書の蔵板書目と同じ「北久太郎町五丁目」〈『新板願出印形帳二』〉にあつたが、同十年十月には「浄覚町」に移転していることなどから年代を推定）。

【記録】〈大坂開板〉板元〓河内屋義助、出願〓文化二年五月、許可〓同年八月二日。〈大坂板木（寛政）〉「河儀奈長」河儀 文化三年寅五月出来。〈大坂板木（文化）〉「相 河武 奈長〇今辰 河和」。

▲10 賀茂季鷹 とりかえばや物語 未見 物語

【記録】〈京都赦免〉文化五年（未刻）。未刊か。広告A〓Dには、「追彫 全部四冊」として記載あり。

11 千野良岱 和蘭制剂 文化六年刊 大本五冊 医学

【序】「文化二年乙丑之冬讚岐千野／良岱元達書并腕堂」
【奥付】「讚岐千野元達著／文化六年己巳春刻成／書林 京都 夷屋市右衛門」。

【所見本】九大医。

【記録】〈京都赦免〉文化三年。〈江戸割印〉文化六年春、板元〓夷屋市右衛門、売出〓す八らや茂兵衛。

12 郎光顕孝伯 外科訓蒙図彙 文化六年求板（明和六年刊） 半紙本二冊 医学

【序】「明和丁亥春二月望／伏水 郎光顕孝伯」【奥付】「文化六年己巳仲春求板／書肆 京都錦小路室町西 工入 蛭子屋市右衛門」。

【所見本】京大（七―三―ケ―一）。

【諸本】初印本〓奥付「明和六己丑春三月／皇都書肆 二条通麩屋町東 工入町 林宗兵衛発行」（京大富士川ケ―一六三）。

13 賀茂季鷹（校） 唐物語 文化六年刊 大本二冊 物語

【序①】「文化三年うつきいつかの日／江戸 橋千蔭」【序②】「文化五年六月 賀茂季鷹しるす」【跋】「文化戊辰春三月／雀山畑維龍識」【広告】「廣告A 蔵版和書目録 明学堂」【奥付】「文化六年己巳春三月新刻／書肆 江府下谷池之端仲町 須原屋伊八／大坂高麗橋壹町目 播磨屋九兵衛／京都錦小路通室町西 蛭子屋市右衛門」（前掲廣告のウラ）。

【所見本】東京都特別買上三三八二。

【諸本】後印本（文政七年）〓奥付「文政七年冬十月発行／浪速書林／心齋橋通南久太郎町 塩屋 山本長兵衛」

(新潟大佐野)。

【記録】〈京都赦免〉文化五年(未刻)。〈京都証文〉文化六年八月、夷屋市右衛門。〈京都濟帳〉文化六年五、九月「唐物語京江戸同板同時二出来」。〈大坂出勤〉文化六年四月「播九より出ル」。〈大坂板木(文化)〉「塩長」。〈江戸割印〉文化六年三月、板元||恵比須屋市右衛門、売出し||須原屋伊八。

14 秉心堂主人 鬼情談 文化六年刊 半紙本三冊 読本

【見返し】「文化六年新刻秉心堂主人著／〔奇事／詳説〕鬼情談 全部三冊／合彫両書坊」【序】「中田謙序／神卷敬明書」【奥付】「秉心堂主人著／文化六年巳三月新板／京都書林 蛭子屋市右衛門／万屋市三郎／浪花書林 河内屋太助」。

【所見本】国文研。

15 仙掌亭不崑(撰) 狂歌つつい管 文化六年跋刊
半紙本一冊 狂歌

【跋】「文化むつのとし巳の年晩秋日不崑」【奥付】「仙

掌亭蔵板／書林 錦小路新町東へ入 城戸市右衛門／御幸町押小路下 林安五郎／六角堂之前 銭や長兵衛」。

【所見本】バークレー三井。

【記録】〈大坂出勤〉文化七年正月五日。

16 三熊野文丸 峰の雪吹 文化七年刊 半紙本五冊 読本

【見返し】「三熊野文丸著／(小説／画本) 峯の雪吹／合川珉和画／書肆玉集堂合梓」【奥付】「編者 三熊野文丸／画工 合川珉和／江戸書肆 角丸屋甚助／野田嘉助／京都書肆 戒屋市右衛門／八幡屋金七／野田藤八／鉛屋安兵衛／文化四年丁卯九月発／同七年庚午正月刻成」【広告】「絵本蔵版目次 皇都書林三條街吉野屋仁兵衛」(「絵本平泉実記」)、「釈迦八相一代記」。

【所見本】学習院大。

【記録】〈京都証文〉文化四年八月、橘屋嘉介。〈大坂出勤〉文化六年十二月五日「京都出版河太取次」。〈大坂板木(文化)〉「相 京 河茂」。〈大坂買板〉天保八年十月、五軒之一軒前として橘屋嘉助から河内屋茂兵衛が板株購入。〈江戸割印〉板元売出し||角丸屋甚助。

17 韓偓(撰) 野原衡(訂) 晩唐韓翰林集 文化七年

刊 半紙本二冊 漢籍別集

【見返し】「野原平仲重訂／晩唐韓翰林集／京師書肆〔順
応堂／玉笥堂〕梓」【序①】「文化己巳端午後一日／近江
琴希声廷調氏撰」【序②】「田能村孝憲君彝撰(中略)文
化己巳伏日書於南豊之竹田精舎」【跋】「原衡」【奥付】「文
化七年庚午秋九月／書肆 江戸 北沢伊八／大阪 森本
多助／京師 城戸市右衛門／同 小川武右衛門／同 林
安五郎」。

【所見本】架蔵本。

【記録】〈京都赦免〉文化六年(未刻)。〈江戸割印〉文
化七年九月、板元〓城戸市右衛門、売出〓須原屋伊八。

18 速水宗達 茶旨略 文化八年刊 大本一冊 茶道

【見返し】「速水宗達翁著／茶旨略／滌源居蔵」【序】「文
化庚午秋八月朔／平安 畑維龍謹題／薩州長史正韶書」
【跋】「文化七年仲冬 門人 片岡信賢謹識」【広告】「速
水翁著述書目録 滌源居蔵」(「茶理譚」)、「卑言類聚」
計十五点)【奥付】(前掲「速水翁著述書目録」に続けて

同丁に)「文化八年辛未春二月／皇都書林製本所 一条
通知恵光院東江入町 石田治兵衛／錦小路通室町西江入
町 城戸市右衛門」。

【所見本】静岡県葵。

19 藤井高尚 おくれし雁 文化八年刊 大本一冊 消
息

【序】「林秋告」【跋】「文化四年十二月三日／長門守從
五位下藤井宿禰高尚」【奥付】「賀茂季鷹県主闕 鳳の行
かひ 全壹冊 この書ハかもの真ふちの翁をはしめ其名
たかく聞えたまひし諸君たちのせうそこをあつめ初学の
ふミかき給はん便りにとてかく梓にし侍る也／文化八年
辛未四月／皇都書坊 御幸町通御池通北 林安五郎／錦
小路通室町西 城戸市右衛門」。

【所見本】神宮文庫。

【諸本】後印本①(文化十四〓文政元年頃)〓前掲奥付
に「浪華書房 心齋橋筋北久太郎町 河内屋儀助」と入
れ木で加え、奥付の前に広告C「幸之倉和書目録」を付
す(新潟大佐野)。後印本②(文政五〓十二年頃)〓広
告D「幸之倉和書目録」を付す(静岡県葵。同本は享和

二年の奥付を持つが、5『かりの行かひ』の奥付の流用。

【後印本③】(文久元〜二年頃) 裏見返しに『雅言通載抄』

(文久元年) の広告一枚刷りを貼付し、「書林／京都寺町通／蛸葉師下ル町／恵比須屋市右衛門」と捺印(筑波大)。

【記録】(大坂出勤) 文化八年八月二日「河内屋儀介取次」。(大坂板木(寛政)「相 河竹 京」。(大坂板木(文化)「相 ○河武 京 河喜」。(大坂買板) 文久二年七月、三軒之二軒前として恵比須屋市右衛門から河内屋喜兵衛が板株購入。

20 藤井高尚 日本紀の御局の考 文化十年刊 大本一冊 物語

【序】「若狭の国の小浜の里人／石田千頼」【奥書】「文化八年十一月十五日 長門守藤井宿禰高尚」【跋】「文化こゝのとせといふとしのやよひ／竹むら尚孝しるす」【奥付】「文化十年癸酉春発行／大坂 岡田儀助／葛城長兵衛／京 城戸市右衛門／林安五郎」。

【所見本】パークレー三井。

【記録】(京都赦免) 文化九年。(大坂出勤) 文化十年五

月「京都林安五郎出版(中略) 取次河内屋儀介」。

文化八年の奥付を持つ本もあるが(国文研初雁、国会、大阪天満宮)、その奥付は19『おくれし雁』のそれを流用したものであり、またそれらの本の版面も全体的に傷みが多く、むしろ後印本とおぼしい。竹村尚孝の跋が同九年であること、『出勤帳』に記されるとおり、大坂本屋仲間への出願が同十年であることを考えれば、初印は文化十年であり、文化八年の奥付は後印の際に書肆が付けたものと考えられる。

21 松下見林 前王廟陵記 文化十年求板(元禄十一年刊・安永七年修) 大本二冊 歴史

【序】「元禄九年中元日／平安城松下見林序」【刊記】「安永七戊戌年五月彫成／文化十癸酉年十月求板／京都書林 錦小路通室町西江入 恵比須屋市右衛門」(下巻本文最終丁ウラ)。

【所見本】国文研。

【諸本】【早印本①】(元禄十一年) 刊記「元禄十一戊寅 歳弥生吉祥日／書肆 摂州大坂北御堂前毛利田庄太郎梓行」(名古屋市鶴舞)。

【早印本②】(安永七年増補) 刊記

「安永七戊戌年五月／書肆 東武 日本橋通三丁目 野

田七兵衛／浪華 心齋橋順慶町 柏原屋清右衛門／平安

二条通富小路西江入野田藤八」（金沢市稼堂）。**後修**（増

註）**本** 見返し 「松下見林先生著／（増註）前王廟陵記

／此書八見林先生の原著に増補ありて世に行はれたるか

猶近き頃山陵の事盛大になれるより又其考弥精細なり故

に今またこれを或人の考証によりて細註し其標を註字の

上に◎加ふ四方の識者坐右の珍となし給はん事を欲す

四書堂主誌」、奥付 「元禄十一戊寅歳三月彫成／安永七

戊戌歳五月補正／書林 江戸 須原屋茂兵衛／大坂 河

内屋茂兵衛／河内屋和助／敦賀屋彦七／京都 菱屋孫兵

衛／越後屋治兵衛／林芳兵衛／勝村伊兵衛」（早大ル三、

三〇五七）。

【記録】（大坂買板）天保六年八月、丸株として恵比須

屋市右衛門から奈良屋長兵衛が板株購入。（大坂板木（文

化）「奈良」。

恵比須屋が求板した文化十年本は、元禄十一年本の下

巻に「補闕」を加えた安永七年本から刊記（下巻四一

丁才）を削り、丁付けを修正した上で、下巻最終丁（四

二丁ウ）に新たな刊記を彫ったもの。

22 藤井高尚 松屋文集 文化十一年刊 大本二冊 和

文集

【序】「文化八年六月 みさとの御民 城戸千楯」【跋】

「文化八年嘉平月／平安紀惟徳」【奥付】「文化十一年春

発行／書坊 京 蛭子屋市右衛門／林安五郎／大阪 河

内屋儀助／奈良屋長兵衛」。

【所見本】国文研（ナ五・一四・一〜二）。

【諸本】**後印本**①（文化十二年頃） 前掲奥付の前に広

告B「明学堂和書目録」を付す（高山郷土館）。**後印本**

②（安政三年） 奥付「安政三年丙辰年改正／三都書肆

江戸 日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛／同 二丁目

山城屋佐兵衛／尾州名古屋 本町七丁目 永楽屋東四郎

／京 二條東洞院上ル田中屋治助／大阪 心齋橋安土町

南工入 河内屋和助板」（盛岡市、ただし67『松屋文集

集』盛岡市本の奥付と同板）。**後印本**③ 奥付「書林

京都 寺町通仏光寺 河内屋藤四郎／江戸 日本橋通壹

丁目 須原屋茂兵衛／同 式丁目 山城屋佐兵衛／同

式丁目 須原屋新兵衛／同 四丁目 山城屋政吉／同

本石町十軒店 英大助／同 下谷御成道 英文蔵／同

大伝馬町式丁目 丁子屋平兵衛／同 芝神明前 岡田屋
嘉七／大阪 心齋橋通本町角 河内屋藤兵衛／大阪 心
齋橋筋博労町角 河内屋茂兵衛（八戸市）。

【記録】〈大坂出勤〉文化十二年四月五日「当地添章差
出」。〈大坂板木（文化）〉「相 ○河武 京 奈良 加善
○今辰 敦九 河和」。〈京都重板〉嘉永三年二月、四軒
の一軒分として近江屋佐太郎から河内屋茂兵衛が板株購
入。

23 藤井高尚 ひきものさだめ 文化十一年刊 半紙

本一冊 管絃

【序①】「源尚文」【序②】「文化五年三月十五日 藤井
宿禰高尚」【跋】「藤原保世」【奥付】「文化十一年春発行
／京都書坊 小杉文右衛門／城戸市右衛門」。

【所見本】国会。

【記録】〈京都赦免〉文化十一年。〈大坂出勤〉文化十二
年二月「河内屋儀助より、ひきものゝ定京板也添章申出
候、則出ス」。

▲24 小沢蘆庵 ふりわけがみ 文化十一年印力（寛政

八年刊） 大本一冊 歌学

【跋】「丙辰春洛東凶南亭二筆をとる／蘆庵」【刊記】「寛
政八年丙辰三月／京都二條通富小路東へ入町 吉田四郎
右衛門」（跋文ウラ）【奥付】「文化十一年春発行／書坊
京 蛭子屋市右衛門／林安五郎／大阪 河内屋儀助／
奈良屋長兵衛」。

【所見本】甲南女子大。

【諸本】**【初印本】**『前掲刊記のみで奥付はなし。
奥付は22『松屋文集』からの流用。』

25 川島茂樹 消息文梯 文化十二年刊 中本一冊 消

息

【序】「文化十二年霜月望乃日／はとり敏夏」【廣告】「紫
文製錦」「紫文消息」「頭書紫女七論」「増補歌文要語」「万
葉類葉抄」「万葉集見安補正」計六点【奥付】「（前掲広
告に続けて同丁に）文化十二乙亥歳九月／書林 皇都
戎屋市右衛門／江戸 前川六左衛門／大阪 河内屋儀助
／同 河内屋嘉助／同 奈良屋長兵衛」。

【所見本】架蔵本。

【諸本】**【後印本①】**『前掲奥付の後に、「浪華書林吉田松

根藏版書目録」六丁あり（新潟大佐野）。**後印本②** 前

掲奥付の後に、別の奥付「文化十二年秋出版／京 錦小路室町西 恵頃須屋市右衛門／大坂 心齋橋通唐物町南

河内屋儀助」を付す（金沢市稼堂、ただしその奥付刊

記は字配りが不自然で、大坂の書肆がもう一軒記されて

いたのを削ったように見える）。

【記録】〈京都赦免〉文化十一年（未刻）。〈大坂出勤〉

文化十二年九月十一日「京蛭子屋市右衛門板行、取次河

茂（中略）相合之出本」。〈大坂板木（文化）〉「相 京

加善 河儀〇河長 河喜」。〈大坂買板〉文久二年七月に、

四軒之一軒前として恵比須屋市右衛門から河内屋喜兵衛

が板株購入。

26 三宅公輔 名字弁 文化十二年刊 大本一冊 和学

【序】「文化十二年八月十日三宅公輔山菅居にしろす」【奥

付】「山菅居藏板／文化十二年乙亥十一月／皇都書肆

錦小路室町西へ入 恵比須屋市右衛門／新町通御池下ル

林安五郎」。

【所見本】京大総。

【記録】〈大坂出勤〉文化十三年八月五日「林安五郎二

而板行出来」。

▲27 本居宣長 詞の玉緒 文化十二年頃印力（安永八

年刊・寛政四年修） 大本七冊 語学

【広告】出版広告B「明学堂和書目録」【奥付】「寛政四

年補刻校／書肆 京都 錢屋利兵衛／同 菱屋孫兵衛／

武村嘉兵衛／同 勝村治右衛門／同 林伊兵衛／勢州

柏屋兵助／同 藪屋勘兵衛」。

【所見本】大阪市大森。

28 北向雲竹 蘭桂和歌集類題 文化十三年刊 中本二

冊 類題集

【跋】「山本周禎しろす」【奥付】「文化十三年丙子正月

発行／京都書林 林安五郎／天王寺屋市郎兵衛／錢屋惣

四郎／恵比須屋市右衛門／木邨吉右衛門／大坂書林 葛

城長兵衛」。

【所見本】大阪市大森。

【諸本】後印本Ⅱ「水玉堂藏板歌書連俳書目 京都寺町

五條上ル町天王寺屋市郎兵衛」（『和歌夫木集』）『連歌

雨夜の記』計一丁）、および前掲と別板の奥付「文化十

三年丙子正月発行／京都書林 林安五郎／出雲寺文治郎
／天王寺屋市郎兵衛／錢屋惣四郎／木邨吉右衛門／大坂
書林 葛城長兵衛」を付す（若国徴古館）。

【記録】（大坂出勤）文化十三年五月廿五日「京出版并
二大坂相合之出版、都合二部出ル、ならや長兵衛より、
添章認渡」。

29 田中大秀 養老美泉弁 文化十三年刊 大本一冊
地誌

【見返し】「飛驒 湯津香木園藏板／養老美泉弁／文化丙
子季秋発行／本文 東巒先生隸書正面摺 一葉／註解
田中大人自註 一冊／製本所 尾張名古屋 東壁堂」

【序】「文化乙亥仲冬 臥牛山人」【刊記】「湯津香木園
藏版」（本文最終丁）【広告】「香木園田中大秀著述書目
高山書肆煙霞堂記」【奥付】「香木園著書発行書林／京

都 錦小路室町 蛭子屋市右衛門／大坂 本町二丁目
奈良屋長兵衛／江戸 日本橋中通新右衛門町 前川六左

衛門／飛驒 高山二之町 鍵屋与六郎／製本所 尾張
名古屋本町七丁目 永樂屋東四郎」

【所見本】パークレー三井。

30 契沖（注）河本公輔（校）賀茂季鷹（閱）新撰万
葉集（校正菅家万葉集）文化十三年刊 大本二冊 歌集

【序】署名なし【奥書】「寛永十年霜月十七疑 光広」【跋】
「賀茂季鷹」【奥付】「浪華契沖阿闍梨冠註／備前河本公
輔大人校／賀茂季鷹主閱／文化十三年丙子九月／平安書
肆文泉橋枝斯文文錦／博厚五車松玉笥明学竹苞／等再
刻発兌」。

【所見本】岐阜大（九八一四〇一）

【諸本】後印本①（文化十四く文政元年頃） 前掲奥付
の前に広告C「幸之倉和書目録」を付す（パークレー三
井）。後印本②（文政元年） 前掲奥付の替わりに、別

の奥付（広告「杜騙新書」く「春秋非左」計七点に続け
て同丁に）「文政元年戊寅初冬／皇都書林 御幸町御池
下町 菱屋孫兵衛」（吉永登ヨ一、一九一三）を付す。

元禄九年刊本に若干の修正を施した上で覆刻したも
の。すなわち元禄九年刊本やその後印である元禄十二
年印本とは別版。寛文七年版とも別版である。

▲31 賀茂季鷹 和歌ちまたのしるべ 未見

【記録】〈京都赦免〉文化十三年（未刻）
出版広告Cによれば、「折本一帖」。

32 胡乙肇莫蒲剛（著）小森桃塙（訳） 蘭方枢機 文
化十四年刊 半紙本五冊 医学

【見返し】「平安桃塙小森先生訳述／蘭方枢機／貽安斎蔵」【序】「文化丁丑春正月／正三位丹波頼理撰／越前守藤原光寧書」【題言】「文化十三龍集丙子仲冬 池田義冬蔵謹識」【後序】「門人越藩医員岡美撰」【跋】文化丁丑春／平安 藤林紀元識」【廣告】「桃塙小森先生著述目錄／【西説】病因精義 全八冊 近刻／病診要訣 全一冊 嗣出／泰西方鑑 全五冊 嗣出／（和蘭）医学溯源

全三冊 嗣出／貽安斎蔵版」【奥付】「文化十四年丁丑秋刻成／書肆 京都 河南四良兵衛／同 河南喜兵衛／同 天王寺屋嘉兵衛／同 蛭子屋市右衛門／大阪 秋田屋太右衛門／同 加賀屋善蔵／同 奈良屋長兵衛／江戸 須原屋茂兵衛」。

【所見本】京大富士川（ラ一九）
【記録】〈京都証文〉文化十四年正月～五月、河南四郎兵衛。

▲33 城戸千楯 万那備能広道 文化十四年刊 大本一冊 和学

【奥付】「志美迺牟呂屋蔵版／文化十四年丑五月発行／京都書林 三条通御幸町西江入町 河南儀兵衛／大坂書林 心齋橋南本町 岡田儀助」。

【所見本】パークレー三井。

【記録】〈京都赦免〉文化十四年。〈京都証文〉文化十四年正月～五月、河南儀兵衛。

広告C・Dに記載あるも、奥付に恵比須屋の名はなし。

34 長谷川普緒 奴豆能舎集（奴豆能舎長歌集） 文化十四年刊 半紙本一冊 歌集

【序】「長谷川普緒」【刊記】「奴豆迺舎蔵版／文化十四丁丑年十二月／書肆 皇都 蛭子屋市右衛門／大坂 河内屋儀助／伊勢 柏屋兵助」（本文最終丁ウラ）【廣告】「奴豆迺舎蔵板／藤垣内集 三冊／万葉山常百首 一冊／奴豆迺舎長歌集 年々嗣出／奴豆迺舎文集 年々嗣出」。

【所見本】刈谷市村上。

【記録】〈京都赦免〉文化十四年。〈大坂出勤〉文政元年三月五日「京都戎市板行、(中略)、取次人河武」。

35 塩田良珉 和蘭外科全書 文化十五(文政元) 年刊

大本六冊 医学

【見返し】「讃州塩田時敏良珉訳／和蘭外科全書／吸玉堂藏」【序①】「和蘭外療全書／(中略)文化丁丑初春／讃藩医員久保方卿誌」【序②】「文化丑春二月／平安藤林紀元泰介撰」【巻首】「高松医員 〔塩田時敏良珉／久保方卿久安〕 訳／〔平安 杉岡道啓公曙／佐藤陳義公種／浪華 仲環環中〕 参閱」【奥付】「吸玉堂藏版／文化十五戊寅春二月／皇都書肆 寺町五条上ル 天王寺屋市郎兵衛／同町 同 嘉兵衛／錦小路室町西へ入 恵比須屋市右衛門」(第三冊)。

【所見本】神宮文庫。

【記録】〈京都赦免〉文化十四年。〈京都証文〉文化十四年一く五月、ゑひすや市右衛門。

第三冊以外に奥付なし。

36 日本風土記 文化十四く文政元年頃求板力 大本二冊 地誌

【刊記】「宝永五戊子年九月吉旦 中村孫兵衛藏板」(本文末尾) 【広告】 広告C「幸之倉和書目録」。

【所見本】パークレー三井(三三二五二)。

宝永五年に中村孫兵衛から刊行された『改正国名風土記』の改題本。本書は、広告B「明学堂和書目録」に掲載されず、広告Cではじめて恵比須屋の目録に掲載される。中本八冊の享和三年本とは別版。

37 藤井高尚 伊勢物語新釈 文政元年刊 大本六冊

物語

【序】「かくまうすハ此うしにものならふこまのみちのくち岡山のさとひと 渡辺重豊／文化十二年三月十一日」【跋】「讃岐高松之里人源春野」【刊記】「文政元年戊寅九月彫成／奴豆能舍藏板／製本所 京都 吉田四郎右衛門／植村藤右衛門／小川武右衛門／城戸市右衛門／江戸 和泉屋庄次郎／大坂 河内屋儀助」(跋文最終丁ウラ)。

【所見本】高山郷土館。

【諸本】後印本① 前掲刊記を入れ木で修訂し、「文政元年戊寅九月彫成／奴弓能舎藏板／製本所 京都 吉田二郎右衛門／植村藤右衛門／城戸市右衛門／江戸 和泉屋庄次郎／大坂 加賀屋弥助／河内屋儀助」とする（旧大阪女子大）。後印本②（文政五／十二年頃） 後印本①の刊記の後に、広告D「幸之倉和書目録」を付す（射和）。後印本③ 後印本①の刊記の後に丁字屋定七の広告〇・五丁（和歌夫木抄）と「実語教童子教ちんこう記其外諸往来物字引画引節用集」を付す（パークレー三井）。後印本④ 後印本①の刊記の後に、奥付「諸国書物問屋 扇屋七右衛門／油屋嘉右衛門／油屋仁兵衛／吉阪屋太兵衛／近岡屋太兵衛／丁子屋嘉助」（書肆所在地省略）を付す（酒田市光丘）。

【記録】（京都赦免）文化十四年（未刻）。（京都重板）嘉永三年二月、近江屋佐太郎から河内屋茂兵衛が板株購入。（大坂出勤）文政二年二月五日「奈良屋長兵衛より、京都戎市板行二、伊勢物語新釈卜申書出来致候所、差構有之候二付、何方より添章申出候共廻呉候様、口上書ヲ以申出候二付聞届候事」。（同上）文政四年十一月二十日「河儀より、伊勢物語新釈、添章取二出ル」。

38 本居春庭（編） 門の落葉 前編 文政元年序刊
大本二冊 歌集

【序】「本居春庭／文政元年十一月」【刊記】「須受能耶藏板」（本文末尾）【奥付】「門のおち葉二編嗣出／弘所書林／京 錢屋利兵衛／同 蛭子屋市右衛門／大坂 河内屋太助／松坂 柏原兵助」。

【所見本】刈谷市村上

39 藤井高尚 浅瀬のしるべ 文政二年刊 大本一冊
教訓

【序①】「出雲宿禰俊信」【序②】「文化九年五月三日 本居大平」【跋】「備後菅晋帥」【奥付】「文政二年卯春彫成／奴弓能舎藏版／大坂 河内屋儀助／江戸 和泉屋庄次郎／京都 植村藤右衛門／舛屋武右衛門／恵比須屋市右衛門」。

【所見本】金沢市稼堂。

【諸本】後印本① 前掲奥付の前に「浪華書林岡田種玉堂藏版書目」（神代卷）と「烏石成肅公碑」計四丁）を付す（酒田市光丘）。後印本② 前掲奥付の前に「泰文

堂藏刻製本目案」(「日本山海名産図会」)「会稽松の雪」計一丁)を付す(大洲市)。

【記録】(大坂開板)藏板主||奴豆能舎、売弘||河内屋武松、代判||茂兵衛。(大坂板木(文化))「相 京 ○支河儀」、(大坂出勤)文政二年七月二六日「売弘人河義」。(藤井文政堂板木売買文書)文久二年四月、五軒ノ老トして夷市から山城屋佐兵衛が板株購入、相合塩長・河茂・丁嘉。

40 渡辺重名 木柴の雪 文政二年刊 大本四冊 歌学

【序】「本居大平」【奥書】「藤原重名/文化十三年子八月」【跋】「清水浜臣」【広告】「和書部 万笈堂英遵藏板目録」(「月詣倭歌集」)「小柴の雪」計十三丁)【奥付】「文政二己卯年孟春/京都書林 三條通高倉東工入町 出雲寺文次郎/錦小路通室町西工入 恵比須屋市右衛門/江戸書林 本石町十軒店 英平吉郎」。

【所見本】神宮文庫。

【諸本】無刊記本あり(「パークレー三井等」)

41 塩田良珉 和蘭外科全書附録 文政二年刊 大本

一冊 医学

【広告】「吸玉堂藏版書目」(「和蘭語法解」)「和蘭外科全書」(「和蘭外科全書附録」)。

【所見本】早大。

【記録】(京都赦免)文政二年。(京都証文)文政二年一〇五月、夷屋市右衛門。

刊記・奥付なし。しかし、35『和蘭外科全書』の板元が恵比須屋市右衛門であること、書林仲間記録にも恵比須屋が板元であることが明記されていることから、本書の板元も恵比須屋市右衛門であると認定してよいだろう。

42 殿村常久 宇津保物語年立 文政三年序刊後印 半

紙本一冊 物語

【序①】「清水浜臣」【序②】「文政三年十二月三日 本居大平」【序③】「文政二卯年十二月 殿村常久」【奥付】

「弘所書林 京 勝村治右衛門 同 蛭子屋市右衛門

大坂 柏原屋清右衛門/同 河内屋太助/名古屋 永楽屋東四郎/松坂 柏原屋兵助(印「文海堂印」)

【所見本】早大。

【諸本】早印本¹刊記「巖軒藏板」（本文最終丁ウラ）。

【後印本】¹奥付（「大日本国郡全図」の広告に続けて同丁に）「書肆 尾州名古屋本町通七丁目 永楽屋東四郎／江戸日本橋通本銀町二丁目 同出店」（刈谷市）。【後印本】²奥付「書林 伊勢松阪 柏屋徳兵衛／同所 柏屋久七」（国文研長谷）。

43 鶴峯戊申 天の真はしら 文政四年刊 大本一冊
和学

【奥付】「文政四年辛巳春三月／書林 京都錦小路通室町 蛙子屋市右衛門／大阪心齋橋通北久太郎町 河内屋儀助／同所 河内屋茂兵衛／同南久太郎町 塩屋長兵衛」。

【所見本】バークレー三冊。

【記録】〈大坂図書〉 文政四年五月免許、著述者・蔵板主¹鶴峯戊申、売弘人²河内屋茂兵衛、当時板元³河内屋茂兵衛（大坂板木（文化））「相 ○河儀○塩長 塩長 ○河茂」。

44 古今和歌集 文政四年修（安永八年刊） 大本二冊

歌集

【奥付】「安永八年己亥秋開板／文政四年辛巳冬補刻／平安書林 吉田四郎右衛門／同 治兵衛／城戸市右衛門／林安五郎」。

【所見本】国文研（サ二七一一～二二）。

【諸本】早印本¹奥付「安永八年己亥秋／平安書林 山本平左衛門／林伊兵衛／武村嘉兵衛」（書肆所在地省略）（書陵部鷹六五二）。

川上新一郎『古今和歌集』版本諸版一覽（『斯道文庫論集』十八、一九八二年三月）、同『古今和歌集版本考』（同、三四、二〇〇〇年二月）、同『古今和歌集版本考（続）』（同、三五、二〇〇一年二月）、同『古今和歌集版本考（続）』（同、三五、二〇〇一年二月）、同『古今和歌集版本考（続）』（同、三六、二〇〇二年二月）を参照。

45 鶴峯戊申 古義神代考 文政五年刊 大本三冊 和学

【序】「つるみねのしげのぶいふ」【奥付】「須天廼屋蔵版／文政五歲壬午秋七月発梓／発行書房 江戸中通新右衛門町 崇文堂前川六左衛門／京都錦小路室町西へ入

明学堂城戸市右衛門／浪速心斎橋北久太郎町 群玉堂岡田茂兵衛／同南久太郎町 泰文堂山本長兵衛」。

【所見本】早大。

【諸本】**後印本**① 前掲奥付の替わりに、別の奥付（広告「表書字笺」）と「抛入華乃園」計七点に続けて同丁に「御書物所 大阪書林 心斎橋通南久太郎町 塩屋長兵衛」を付す（神宮）。

【記録】〈大坂図書〉文政五年七月免許、著述者・蔵板主 鶴峯戊申、売弘人 河内屋儀助、当時板元 藤屋宗兵衛。〈大坂板木（文化）〉「相 ○河儀○塩長」。

46 藤井高尚 大祓詞後々釈 文政五年刊 大本一冊 神書

【序】「播磨国広嶺乃神之宮司源国忠」【奥書】「文化十とせといふ年のしはすのつごもりの日書をへぬ」【跋】「時者文化之十年余四年止云年之九月如此言者吉備道口邑久那豊原里人業合大枝」【奥付】「文政五年壬午之秋発行／製本弘所書林 勢州松坂日野町 柏屋兵助／大坂心斎橋筋北久太郎町 河内屋義助／京都錦小路室町西へ入町 恵比須屋市右衛門／同三条通富小路東へ入町 錢屋利兵

衛」。

【所見本】多和。

【諸本】**後印本**① 〔天保三年以降〕 前掲奥付の替わりに、別の奥付「京都書林 寺町蛸葉師下ル町 城戸市右衛門」を付す（静岡県葵）。**後印本**② 前掲奥付の替わりに、「浪華書林岡田種玉堂蔵板書目」〔神代卷〕と「名家新句集」計四・五丁）を付す（ケンブリッジ）。

後印本③ 前掲奥付の替わりに、「皇都書林文昌堂蔵板目録」〔神代卷〕と「新選八卦鈔」を付す（金沢市稼堂）。

【記録】〈京都赦免〉文政三年（未刻）。〈大坂板木（文化）〉「相 ○河儀 京」。〈大坂出勤〉文政六年九月十一日「河内屋儀助より、京板相合板（後略）」。

47 義門 友鏡（てにをは友鏡） 文政六年刊 一冊 語学

【刊記】「友鏡底の影 近刻／これハともかゝみなる図ともの中にハあらゆるハたらきことばともものうつるやうをこと／＼くにをしへさとせる書なれバ友かゞミ見ん人ハ必ならへたくへつゝ考へ見給ふへき書也／（押捺朱印

えたもの。

「鐸舎藏板」／文政六年癸未陽春／製本所／京御幸町御池ノ南 菱屋孫兵衛／同三条富小路東 錢屋利兵衛／同新町三条ノ南 升屋武右工門／同新町御池ノ南 林安五郎／同錦小路室町西 恵比須屋市右工門（最下段）

【所見本】国会（Y R八一四）。

【諸本】**【翻刻】**（天保十三年） 刊記「天保十三年寅九月新彫／京寺町仏光寺上ル 近江屋佐太郎」（左下部欄外）

（国会一一九四五）。

【記録】〈大坂出勤〉文政七年閏八月五日「同人（青山注——河内屋新二郎）より、詞遣ひ友かゝみ折本、此度京都ト対談いたし相合ニ相成候由」。〈京都証文〉万延二年九月「一 てには友かゝみ重板交て買入候板木差出詫一札 同一通 田中屋次助／一 右板木元板主相渡候二付 同一通 蛭子屋市右衛門」。〈京都重板〉文久元年九月「板木大坂河内屋新次郎并我方相合所持罷在候処、先年外方ニ而重板致出来、迷惑至極ニ奉存候（中略）右仲ヶ間御取解中、先近江屋佐太郎方ニ出来、其後田中屋治助方被買つ取候」。

右の記録は、近江屋佐太郎板（後に田中屋治助が板木を買い取る）が重板であるとして、恵比須屋が訴

48 松田直兄 言葉直路 文政六年刊 大本一冊 歌学

【序①】「文政四年八月／従三位津守国礼」【序②】「文政四年九月十三日宗岡行敬しるす」【奥書】「文政三年八月はしめつめた／賀茂直兄」【跋】「文政四年新嘗祭後朝

／御室の宮人／菅原雪臣」【奥付】「文政六年未春刻成／製本所 京 錦小路通室町西入 恵比須屋市右衛門／大坂 心齋橋通唐物町南入 河内屋儀介／江戸 日本橋通新右衛門町 前川六左衛門」。

【所見本】新潟大佐野。

【諸本】**【後印本①】**（弘化四年） 前掲奥付がなく、替わりに広告「松田直兄大人著述／（言葉直路）」 垣根の小艸「計九点」／皇都書肆 出雲寺文次郎、および奥付「弘化四年丁未夏発行／弘所書林 江戸 横山町一丁目 出雲寺万次郎／芝神明前 岡田屋嘉七／大坂 心齋橋北久太郎町 河内屋喜兵衛／心齋橋南二丁目 敦賀屋九兵衛／皇都 寺町通蛸薬師下町 夷屋市右衛門／三条通高倉東へ入町 出雲寺文次郎」（広告と同丁のウラ）を付す（金沢大）。**【後印本②】** 奥付「書肆 尾州名古屋

本町通七丁目 永樂屋東四郎／江戸日本橋本銀町二丁目
同出店（刈谷市村上）。

49 本居大平 万葉山常百首 文政六年刊 大本一冊
歌集

【序】「文政三年庚辰八月乃晦かくいふはおやの木国人
安田長穂」【跋】「文政三年の春。本居大平」【奥付】「文
政六年癸未春／皇都書林 三条通高倉東 出雲寺文次郎
／錦小路通室町西 城戸市右衛門」

【所見本】茨城県歴史館。

【諸本】**後印本①** 扉「本居大平大人撰／万葉山常百首
／此書八万葉集中より道のためとなるへき歌をえらひ出
て誤字訓等を委く考へ正したるなり／皇都書肆 〔松栢
堂／幸之倉〕合刻」、奥付「京師三条通升屋町 御書物
所出雲寺和泉掾」（東北大狩野）。**後印本②** 前掲奥付の
替わりに、別の奥付（広告「本朝六国史」）「官位昇進
指掌図」計二十二点」に続けて同丁に「国学御書物所
京都三条通堺町 出雲寺松栢堂」を付す（青森県工藤）。
後印本③ 前掲奥付の替わりに、別の奥付「発行書林
須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／和泉屋金右

衛門／岡田屋嘉七／出雲寺文治郎／紙屋惣右衛門／榎並
屋小兵衛／近江屋平助／伊丹屋善兵衛」（書肆所在地省
略）を付す（静岡県葵）。

【記録】〈大坂出勤〉文政七年二月二十日「河内屋茂兵
衛より、京板万葉山常百首（後略）」。

50 賀茂季鷹 富士日記 文政六年刊 大本一冊 紀行

【序】「文化十一年九月 三宅公輔識」【跋】文化十一年
戊孟夏瀬尾文拝撰」【広告】「幸之倉和書目録」【奥
付】「文政六年癸未仲夏発行／書林 京都堀川通高辻上
梶川七郎兵衛／同錦小路通室町西／恵比須屋市右衛門
／大坂心齋橋筋博勞町南 河内屋茂兵衛」。

【所見本】岩瀬。

【記録】〈京都赦免〉文政六年（未刻）。〈京都証文〉文
政六年一〜五月、夷屋市右衛門。〈大坂出勤〉文政七年
閏八月五日「河内屋茂兵衛より、京都卜相合板」。

51 無幻道人 春霞帖 文政六年刊 大本一冊 左版
法帖

【見返し】「無幻道人像名／春霞帖／二庫堂藏粹（捺

印「瓊章園藏版記」) 【序】「二柳春門」 【奥書】「竹窓森
黄識」 【跋】「井上高輅」 【奥付】「瓊章園藏板」 / 文政六年
癸未六月 / 書林 京都錦小路通室町西 蛭子屋市右衛門
 / 大坂江戸堀犬齋橋 今津屋辰三郎 / 同心齋橋通北久太
良町 河内屋儀介」。

【所見本】大阪天満宮。

【諸本】**後印本** || 奥付の刊年月「文政六年癸未六月」の、
「六」「癸未」「六」を入れ木で修正し、「文政七年甲申
二月」とする(高崎市俳山亭)。

【記録】〈大坂開板〉板元 || 今津屋辰三郎。〈大坂図書〉
文政六年九月免許、開板人 || 今津屋辰三郎。

『村田春門日記』によれば、春門への序文の依頼は、
文政六年五月九日であり、出来は同七年四月九日で
あった。したがって、本書の実際の刊行は文政七年
であったと考えられる。

52 和歌手引草 文政八年刊 折本一帖 歌学

【序】「文政甲申季冬、紫陽花園主人しるす」 【刊記】「文
政八年酉初夏 / 皇都書林 寺町通松原上ル菱屋治兵衛 /
錦小路室町西 恵比須屋市右衛門 / 烏丸通四条上ル 福

庭九右衛門」(本文最終丁)。

【所見本】陽明文庫。

【記録】〈大坂出勤〉文政九年二月五日「加善取次二而、
京菱治板和哥手引草」。

53 山川正宣 仏足石和歌集解 文政九年刊 大本一冊

歌学

【序①】「文政九年歳次丙戌夏五月河内高井田長榮律寺
七十六比丘拙庵書金仙閣中」 【序②】「文政九年春三月源
正宣」 【奥付】「六倉園藏版 每部函章(印「六倉園」)
 / 六倉園著書目録(「薬師寺仏足石和歌集解」) / 「建礼
門院右京大夫集標注」計六点) / 文政九年八月発兌 書
林 皇都 城戸市右衛門 / 東都 前川六左衛門 / 浪華
赤松九兵衛」。

【所見本】旧大阪女子大。

【諸本】**後印本** || 奥付の末尾を入れ木で、「文政九年八
月発兌 / 製本所 大坂 赤松九兵衛」と修正(バークレ
ー)。**覆刻本**(天保十三年) || 奥付「六倉園藏版 每部
函記(印「六倉園」) / 此書文政中既刊行矣而其版權丁
西之火隻字不遺爾後欲再举未果焉近有故属閑因茲重校鏤

梓以復設蠹魚之饌者然／天保辛丑冬 正宣再誌／文政九年

丙戌八月発兌／天保十三年壬寅五月再刻／書林 京

城戸市右衛門／江戸 須原茂兵衛／大坂 赤松九兵衛／

全 葛城長兵衛〔浄照坊〕。覆刻修訂本（天保十三年）

〓奥付「六倉園藏版（印「六倉園」）／此書文政中既刊

行矣而其版罹丁酉之火隻字不遺爾後欲再举未果焉近有故

属閑因茲重校鏤梓以復設蠹魚之饌者然／天保辛丑冬

（印）（正宣）／文政十年丁亥五月発兌／天保十三年

壬寅十月再刻／書林 京 城戸市右衛門／江戸 須原茂

兵衛／大坂 赤松九兵衛／全 藤屋善七（神宮文庫）。

【記録】〈大坂開板〉作者〓大和屋大三郎（青山注――

山川正宣）、蔵板主〓同人、売弘〓播磨屋九兵衛、出願

〓文政十年三月、許可〓文政十年五月九日。

天保十三年版覆刻本の奥付によれば、文政九年本の

板木は「丁酉」すなわち天保八年の火災で消失。

54 大谷栄庵 百人一首帖 文政十年刊 特大本一冊

歌集

【奥書】「右一帖依所望書之老眼頗狼藉不可有他見努々

／（花押「業広」）【跋】「勝見孝友」【刊記】「文政十年

丁亥春／福庭蔵板（印「福庭蔵板」）／発兌書肆 皇都
錦小路通室町西江戸 城戸市右衛門（跋ウラ）

【所見本】香川大神原。

【諸本】国会『百人一首』（わー七二八一―一四）も同板。

55 城戸千橋 ふるの山ふみ 文政十年刊 中本四冊

歌学

【序】「文政七年十二月 大江広海」【跋】「曙屋主人」【奥

付】「文政十亥年初夏／江戸 須原茂兵衛／大坂 松村

九兵衛／京都 八木治兵衛／北村四郎兵衛／城戸市右衛

門／吉田四郎右衛門／佐々木惣四郎／福庭九右衛門／北

村太助／吉田治兵衛」。

【所見本】岐阜県。

【諸本】後印本①〓奥付書肆名のうち、「松村九兵衛」

を「岡田茂兵衛」に入れ木で修正（刈谷市村上）。後印

本②〓奥付「書林 河内屋藤四郎／須原屋茂兵衛／山城

屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英大助／丁子屋

平兵衛／岡田屋嘉七／小杉文右衛門／河内屋茂兵衛（書

肆所在地省略）（佐賀県）。後印本③（弘化二年）〓奥付

「弘化二年乙巳年再刻／江戸 岡田屋嘉七／須原屋茂兵

衛／山城屋佐兵衛／京都 三津屋嘉兵衛／錢屋惣四郎／大坂 俵屋清兵衛／象牙屋治郎兵衛／敦賀屋九兵衛／敦賀屋彦七（益田家）。〔後印本④〕奥付「諸本仕入所 京都東洞院二條上ル町 田中屋治助」（金沢市藤本）。〔後印本⑤〕奥付「大阪書林 心齋橋通南久宝寺町北へ入 伊丹屋善兵衛」（上田市花月）。〔覆刻本〕（文久元年）見返し「曙廼屋主人輯／和哥布留の山ふみ／九陽軒梓」、奥付「文政十丁亥年初夏刻成／文久元辛酉年初夏再刻／三都発兌書林／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／河内屋茂兵衛／伊丹屋善兵衛／象牙屋次郎兵衛／敦賀屋彦七／著屋宗八／北村四郎兵衛／恵比須屋市右衛門／同 治助／田中屋治助」（土佐山内九九一四五二）。〔覆刻修訂本〕（慶応三年）奥付「文政十丁亥初夏刻成／文久元辛酉初夏再刻／慶応三丁卯初夏補刻／京都書肆 北村四郎兵衛」（岩国徴古四九一三三七二）。

〔記録〕〈京都赦免〉文政七年（未刻）。

56 服部宜 人事原 文政十年刊 大本一冊 医学

〔扉〕「大方服部先生著述／人事原 附（水火残説／別記／色味説／五指論）／門人 岩田広彦謹校」〔序〕「文

政十丁亥春三月紀伊国人大江広彦再拜。識于大阪鞆新天満坊僑居」〔自序〕「文政九年丙戌夏五月日／服部宜」〔廣告〕「星溪服部先生著書目／「学髓 一冊近刻」「天人雜記 一冊嗣出」「人事原外篇 二冊嗣出」「詞源音局 一冊已刻」「人事原 二冊已刻」〔奥付〕「文政十年丁亥九月刻成／作者 江戸服部半十郎／藏版 紀州岩田斐文／発行書舗 京都錦小路室町 恵比須屋市右衛門／江戸日本橋老丁目 須原屋茂兵衛／大阪心齋橋通南久宝寺町 河内屋直助」。

〔所見本〕国会。

〔記録〕〈京都赦免〉文政十年。〈京都証文〉文政十二年正月く五月「人事原願下ケ二付 証文尅通 蛭子屋市右衛門」。〈京都濟帳〉文政十二年正月く五月「蛭子屋市右衛門方人事原卜申書、天文二差障無之哉之趣、東御役所より御尋問并願下ケ一件」。

57 石金音主 古言本音考 文政十一年刊 大本一冊 語学

〔序〕「文政十一年 本居大平序」〔奥付〕「石金佐治兵衛藏板／文政十一年子十二月刻成／弘所書林 江戸 須

原屋茂兵衛／京都 恵比須屋市右衛門／大坂 秋田屋太
右衛門／勢州 柏屋兵助／紀州 忍田屋平右衛門」。

【所見本】パークレー三井。

58 藤井高尚 三のしるべ 文政十二年刊 大本三冊
和学

【序】「文政九年乃秋 長門守從五位下大中臣藤井宿禰
高尚」【奥付】「松屋文後集 全部三冊刻成／松の落葉

全部四冊刻成／文政十二年乙丑三月／京都錦小路室町西
城戸市右衛門／大坂心齋橋筋南久太郎町南 山本長兵
衛／大坂心齋橋筋安土町北 岡田儀助」。

【所見本】静岡県葵。

【諸本】**後印本** 〓奥付の前に広告D「幸之倉和書目録」
を付す。奥付は、「文政十二年乙丑三月」を入れ木で「四
月」に修正する（高山郷土館）

【記録】〈大坂開板〉板元 〓塩屋長兵衛、出願 〓文政十
一年八月、許可 〓文政十一年九月十一日。〈大坂出勤〉
文政十一年二月二十日「しほ長・河義・戎市相合」。

59 藤井高尚 出雲路日記 文政十二年刊 大本一冊

紀行

【扉】「松屋藤井大人著／出雲路日記／（説明文省略）
／京坂三書坊合梓」【刊記】「松屋大人著 三のしるべ

全三冊（広告文省略）／同大人著 松乃落葉 全五冊（広
告文省略）／文政十二丑年夏上梓／京阪書林 京錦小
路室町西入 城戸市右衛門／大坂心齋橋筋安土町角 岡田
儀助／同 南久太郎町南入 山本長兵衛」。

【所見本】静岡県葵。

【諸本】**後印本** 〓奥付の「文政十二丑年夏上梓」が「文
政十三寅年春上梓」と入れ木で修正される（大阪市大森）。

【記録】〈大坂開板〉板元 〓塩屋長兵衛、出願 〓文政十
二年十月、許可 〓文政十三年二月七日。〈大坂凶書〉開
板人 〓塩屋長兵衛、当時板元 〓河内屋茂兵衛。

60 藤井高尚 松の落葉 文政十二年刊 大本五冊 歌
学

【凡例】「時ハ文政の十とせあまり二とせといふとしの
春かく申すハ吉備のみちの中なる二子乃里の民此頃ハな
にはの小柴乃屋に旅居する／中村孫三郎寛」【序】「松齋
藤井高尚」【奥付】（広告「富士日記」）「能因法師玄二

集」計五点に続けて同丁に)「文政十二年丑八月刻成／京阪書林 京錦小路室町ノ西 城戸市右衛門ノ大坂心齋橋通南久太郎町 山本長兵衛」。

【所見本】刈谷市村上。

【諸本】**後印本①**(天保三年) 〓奥付「天保三壬辰年十二月刻成／京阪書林 京寺町通蛸薬師下ル町 戎屋市右衛門ノ大坂心齋橋安土町角 河内屋儀助ノ同南久太郎町南ノ入 塩屋長兵衛ノ同 同町西ノ入 塩屋卯兵衛」(北海学園北駕)。**後印本②** 〓奥付「製本所 書林 大阪心齋橋筋安土町角 河内屋儀輔」(北大)。**後印本③** 〓奥付「浪華書林岡田種玉堂藏板書目 大阪心齋橋通北久太良町北江入 河内屋儀助」に続けて同丁に広告(「神代巻」)。「古註新註大成四書字引」計十三点)あり(新潟大佐野)。**後印本④** 〓奥付「近世諸先生著述(広告文中略)書物所 大坂心齋橋安土町南ノ入東側 河内屋和助ノ唐本和本古本売買(広告文中略)石田万蘊堂」(静岡県葵)。**【記録】**(大坂開板)藏板主 〓藤井松齋、売弘 〓塩屋吉兵衛、出願 〓天保二年十一月、再願 〓同三年六月、許可 〓同三年十二月。(大坂出勤)天保二年十一月二十日「塩長より、松の落葉、藏板売弘願出候」。(大坂図書)著述

者・藏板主 〓藤井高尚、売弘人 〓塩屋長兵衛、当時板元 〓河内屋和助、天保三年十一月免許。

61 平瀬徹斎(編)長谷川光信(画) 日本山海名物図

会 文政十二年修(宝暦四年刊・寛政九年求板) 大本

五冊 物産

【序】「八十一隻半時庵撰ノ時宝暦四年季夏一旬」【刊記】

「画工 松翠軒長谷川光信ノ(宝暦四年甲戌初夏吉日ノ

寛政九年丁巳初春求板) 平瀬徹斎撰ノ(日本ノ万物ノ

山海名産図会 法橋関月画 完五冊ノ(広告文省略)ノ

「浪花ノ書肆) 高木嘉藏梓ノ大坂心齋橋南久宝寺町

山本長兵衛(本文最終丁ウラ)【跋】「赤松閣平瀬鬼望書」

【広告】「泰文堂藏刻製本目案 大阪書林 心齋橋通南久

太良町 塩屋長兵衛ノ(広告「古義神代考」)ノ「万国人

物図会」計一丁)【奥付】「(富士日記)ノ「能因法師玄

二集」計五点)ノ文政十二年丑八月刻成ノ京阪書林 京

錦小路室町ノ西 城戸市右衛門ノ大坂心齋橋通南久太郎

町 山本長兵衛」。

【所見本】慶大。

【諸本】**早印本**(寛政九年) 〓刊記「画工 松翠軒長谷

川光信／〔宝暦四年甲戌初夏吉日／寛政九年丁巳初春求板〕 平瀬徹斎撰／〔日本／万物〕山海名産図会 法橋関月画 完五冊／〔広告文省略〕／浪華書林 梶木町渡辺筋 播磨屋幸兵衛／心齋橋通南久太良町 塩屋長兵衛／同 塩屋卯兵衛〔本文最終丁ウラ、前掲刊記とは異版〕、前掲広告および奥付はなし。

62 本居大平 八十浦之玉 中巻 文政十二年刊 大本二冊 歌集

【跋】「文政十二年九月 加納諸平」【奥付】「櫛酒舎藏版／八十浦の玉上巻（広告文省略）近刻／同 下巻（広告文省略）近刻／文政十二年己丑十一月吉旦／発行書林 京都 恵比須屋市右衛門／大阪 秋田屋太右衛門／勢州 柏屋兵助／紀州 総田屋平右衛門」。

【所見本】岩瀬。

63 夏目養麿 古野之若菜 文政十三年刊 大本一冊 和学

【序】「天保元年庚寅冬／本居大平／長田鶴夫書」【奥書】「文化六年七月稿 夏目養麻呂謹言」【跋】「文政十三年

十月 加納諸平」【奥付】「樟下舎藏板／文政十三年庚寅秋発行／弘所書林 京都 恵比須屋市右衛門／敦賀屋九兵衛／大坂 柏原屋清右衛門／同 源兵衛／秋田屋太右衛門／河内屋太助／同 長兵衛／同 茂兵衛／若山 帶屋伊兵衛／総田屋平右衛門／阪本屋喜市郎」。

【所見本】静岡県葵。

64 殿村常久（編） 門の落葉 後編 文政十三年序刊 大本二冊 歌集

【序】「本居有郷／文政十三年九月」【奥付】「須受能耶藏板／弘所書林 京 勝村治右衛門／同 蛭子屋市右衛門／大坂 柏原屋清右衛門／同 河内屋太助／名古屋 永樂屋東四郎／松坂 柏屋兵助」。

【所見本】刈谷市村上

65 佐藤方定 奇魂 天保二年刊 大本二冊 医学

【序①】「文政七年云年霜月／正三位丹波頼理／源顕祖書」【序②】「文政九年といふとしの三月本居春庭／幕府内史局直事源弘賢書」【序③】「天保乃二とせ長月。江戸乃大城につかうまつりて。法眼のくらゐ二めされて。

おまへのくすし。小川忠実記す【刊記】「文政十二年御免／天保二年秋新刻／鶴舎蔵」（本文最終丁ウラ）【広告】「佐藤先生著述書目 書肆蔵」（奇魂）く「神鍼方」計八点【奥付】「発行書林 皇都寺町通蛸葉師下ル町 蛸子屋市右衛門／同寺町通三條上ル 河南儀兵衛／浪華北久太郎町北へ入町西側 河内屋喜兵衛／尾張名古屋玉屋町 永樂屋東四郎／伊勢松坂日野町 柏屋兵助／江戸日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛／同領国吉川町 山田佐助／同横山町三丁目 若林久兵衛」。

【所見本】刈谷市村上。

【記録】〈大坂出勤〉天保六年八月五日「河喜取次、江戸板奇魂、江戸添章ヲ以引替願出候処、塩平へ廻り付候二付、取次河喜へ本并二廻り章とも相渡」。

恵比須屋が寺町通蛸葉師下ルに店舗を移したのは天保三年二月であるから、所見本の奥付はそれ以降に付されたと考えられる。

66 本居大平 倭心三百首 天保三年刊 大本一冊 歌集

【序①】「堀内広城」【序②】「天保二とせといふ年の二

月かくいふは／賀嶋正根」【序③】「天保二年冬 本居内遠」【奥付】「藤垣内蔵板／天保三年辰三月発兌／弘所書林 江戸 須原屋茂兵衛／京都 恵比須屋市右衛門／大坂 河内屋太助／松坂 柏屋兵助／若山 忍田屋平右衛門」。

【所見本】バークレー三井。

【諸本】見返し「本居大平翁詠／倭心三百首 全／木国書林 青藜堂発兌」を付す（小浜市）。

67 藤井高尚 松屋文後集 天保三年刊 大本三冊 和文集

【序】「時は文政十年三月八日。かくいふは柿庭のあるし大橋長広」【跋】「文政十一年九月／城戸千楯」【奥付】「天保三年壬辰夏四月新刻／書房 京都烏丸通四条上ル町 福庭九右衛門／同寺町通蛸葉師下ル町 城戸市右衛門／大阪心齋橋筋安土町 岡田儀助／同江戸堀二丁目／鷲頭辰三郎／同心齋橋備後町南へ入 中嶋徳兵衛」。

【所見本】長野県短大。

【諸本】後印本（安政三年）〓奥付「安政三年丙辰年改正／三都書肆 江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛／同

二町目 山城屋佐兵衛／尾州名古屋本町七町目 永楽屋
東四郎／京二條東洞院上ル 田中屋治助／大阪心齋橋安
土町南^工入 河内屋和助板（盛岡市）。

【記録】〈大坂出勤〉天保元年九月二十日「河徳より、
松屋文後集、京板出来二付被致持参、尤当地河徳・今辰
・河儀相合板之由」。〈京都重板〉嘉永三年二月、四軒の
一軒分として近江屋佐太郎から河内屋茂兵衛が板株購
入。

▲68 三井秀堅 小児病原後先論 一冊 医学

【記録】〈京都赦免〉天保三年、医書之部、作者〓三井
秀堅、耆冊。〈京都証文〉天保三年一〓五月「小児病原
後先論全耆冊願二付証文耆通 蛭子屋市右衛門」。

▲69 三井秀堅 小児日足草 一冊 医学

【記録】〈京都赦免〉天保三年、医書之部、作者〓三井
秀堅、耆冊。〈京都証文〉天保三年一〓五月「小児日足
草全部耆冊願二付証文耆通 右同人（青山注——蛭子
屋市右衛門）」。

70 松田直兄 貢の八十船 天保三年刊 大本一冊 歴
史

【序】「霜降月乃はじめ／八十翁賀茂季鷹／しるす」【跋】
「橋宗盈」【奥付】「天保三年壬辰十二月発行／皇都書林
烏丸錦小路下ル 大坂屋九右衛門／寺町蛸薬師下ル
城戸市右衛門／一条小川東へ入 平野屋善兵衛」。

【諸本】刈谷市村上。

71 中村春野 日本紀寛宴和歌 天保四年刊 大本二冊

歌集

【序】「松斎大中臣藤井宿禰高尚」【凡例】「源春野」【跋】
「ミなもと乃さた賢／しるす」【奥付】「天保四癸巳年六
月／撰都書肆 京寺町通蛸薬師下 城戸市右衛門／全
二条通 吉田四郎右衛門／大阪心齋橋通安土町 岡田儀
輔 全 博労町南へ入 全 茂兵衛／全 江戸堀犬齋橋
北詰 鷺津辰三郎」。

【所見本】多和文庫。

【諸本】後印本〓「書林 京都寺町通仏光寺 河内屋藤
四郎／江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛／同 貳丁目
山城屋佐兵衛／同 貳丁目 須原屋新兵衛／同 四日

市 山城屋政吉／同本石町十軒店 英大助／同下谷御成道 英文蔵／同大伝馬町貳丁目 丁子屋平兵衛／同芝神明前 岡田屋嘉七／大阪心齋橋通 河内屋藤兵衛／大阪心齋橋筋博労町角 河内屋茂兵衛（東北大狩野）

【記録】〈大坂買板〉安政六年七月に、五軒之老軒前として丸屋善兵衛から河内屋茂兵衛が板株購入。万延元年十月に五軒之老軒前として戎屋市郎右衛門から河内屋茂兵衛が板株購入。

72 大國隆正 うた日記 天保五年序刊 大本一冊 歌学

【序】「天保五年十月」【広告】「野之口隆正著述書目」（ことばのすみな）「幽冥備考」計五丁）【奥付】「佐紀之屋蔵板 発行書林／京都寺町蛸薬師下ル 恵比須屋市郎右衛門／同 三条通麩屋町角 山城屋佐兵衛／同 五条通柳馬場西へ 近江屋佐七郎／江戸芝神明前 和泉屋吉兵衛／同 浅草御蔵前 田中長蔵／名護屋玉屋町 永樂屋東四郎／大坂高麗橋老町目 藤屋弥兵衛／同所 藤屋善七／同 心齋橋安土町 藤屋禹三郎」。

【所見本】刈谷市村上。

【記録】〈大坂開板〉蔵板主〓野々口正作、売弘〓藤屋善七、出願〓天保六年三月、許可〓同六年六月。〈大坂図書〉当時板元〓河内屋和助。

73 大國隆正 鼻くらべのさうし 天保五年跋刊 大本一冊 神書

【奥書】「天保五年なにはに來ぬるはしめのほど（後略、署名なし）」【広告】「野之口隆正著述書目」（ことばのすみな）「神代幽契談」計六丁）【奥付】「佐紀之屋蔵板 発行書林／京都寺町蛸薬師下ル 恵比須屋市郎右衛門／同 三条通麩屋町角 山城屋佐兵衛／同 五条通柳馬場西へ 近江屋佐七郎／江戸芝神明前 和泉屋吉兵衛／同 浅草御蔵前 田中長蔵／名護屋玉屋町 永樂屋東四郎／大坂高麗橋老町目 藤屋弥兵衛／同所 藤屋善七／同 心齋橋安土町 藤屋禹三郎」。

【所見本】神宮文庫。

【記録】〈大坂出勤〉天保六年六月五日「藤善より、鼻くらへ聞届ケ遣候事」。

74 超然 和漢駢事 天保六年刊 半紙本二冊 伝記

【見返し】「天保甲午新鑄／虞淵方外史著／和漢駢事／撫松園藏」【序①】「皇天保歲次癸巳五月／宣徳郎藤公岳撰并書」【序②】「天保四年九月十五日 城戸千楯」【凡例】「天保甲午春日 虞淵方外史識」【跋】「天保癸巳十一月／淡海 中川祿 跋」【奥付】「撫松園藏／天保六年乙未春発行／書肆 京都 野田藤八／城戸市右衛門／龜屋太助／三文字屋和助／江戸 岡田屋嘉七／大坂 秋田屋太右衛門／彦根 錢屋九兵衛」。

【所見本】早大。

【諸本】後印本 前掲奥付の替わりに、別の奥付（広告「三世因果大経五悪凶会」）に続けて同丁に「京都書林 五条通堺町東入ル北側 ひしや友七」を付す（パークレ―三井）。

75 加納諸平（編） 類題馥玉集 三編 天保七年刊

中本二冊 類題集

【奥書】「天保七年三月朔日 諸平」（本文最終丁）【刊記】（奥書に続けて同丁に）「柿園社中蔵板」【奥付】「発行書林 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城戸市右衛

門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／若山 阪本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】稲葉文庫（九一〇一―A一〇）。

76 義門 山口の葉 天保七年刊 大本三冊 語学

【序】「文政三年乃夏 松齋大中臣藤井宿禰高尚」【刊記】「天保七年丙申五月刊成」（下巻本文最終丁ウラ）【奥付】（広告「友鏡底廻影」）「玉の緒くりわけ」計十点に続けて同丁に「製本所 寺町通蝟薬師下ル町 恵比須屋市右衛門／烏丸通魚棚下ル町 菊屋治兵衛／室町通三条下ル町 千切屋庄三郎」。

【所見本】国文研高乗。

【記録】（京都証文）天保七年九月〜同八年正月、夷屋市右衛門。

77 城戸千屯 和歌八島の浪 天保七年刊 半紙本二冊

歌集

【序】「天保六年乃冬 松齋藤井宿禰高尚」【凡例】「城戸千屯」【奥付】「和歌八洲浪 二編 嗣出／天保七丙申年五月官許／同 秋 刊成／平安書房 御池高倉東

本城小兵衛／寺町蛸葉師南 城戸市右衛門」。

【所見本】刈谷市村上。

78 藤井高尚 源平拾遺 天保七年刊 大本二冊 歴史

【見返し】「藤井松齋大人著／源平拾遺 全部二冊／（説明文省略）」【序①】「時は天保六とせといふとしの暮か

て申八吉備の道の口岡山の殿人片岡徳四郎源徳」【序②】

「天保六年乃春 八九翁松齋大中臣藤井宿禰高尚」【跋】

「天保丙申春三月／浪華篠崎弼撰并書」【奥付】「天保七

年丙申十月新刻／書林 大阪心齋橋通南本町 浅井吉兵

衛／同 江戸堀犬齋橋北詰 鷲頭辰三郎／同 心齋橋通

安土町 岡田儀助／京都寺町蛸葉師下ル 城戸市右衛門

／同 寺町通五条上ル 前川市兵衛／江戸浅草茅町二丁

目 北沢伊八」。

【所見本】函館市。

【記録】〈大坂開板〉 売弘 河内屋儀助、板行売弘申出

天保九年九月。

79 大國隆正 通略延約弁 天保七年刊 大本一冊 語学

【見返し】「野之口隆正著／通略延約弁／（説明文省略）」

【奥書】「天保五年五月三十日／大坂乃たびやどりにて／野之口隆正 書之／佐喜乃屋藏板」【廣告】「野之口

隆正著述近刻書目」〈通略延約弁〉「語格直言」計十

六点、一・五丁）【奥付】（廣告最終丁に続けて同丁に）

「于時天保丙申七発行／書肆 江戸 丁字屋平兵衛／田

中長藏／京 和泉屋吉兵衛／戎屋市右衛門／大坂 藤屋

弥兵衛／藤屋善七」。

【所見本】東大國語（24B・65・128980）。

【記録】〈大坂出勤、天保七年八月五日〉「藤善より、通

略延約弁藏板売弘願出候」。

80 大國隆正 兼好法師伝記考証 天保七年刊 半紙本

五冊 伝記

【見返し】「天保七丙申新鐫／「野之口大人輯校／村田

嘉昇画図」／兼好法師伝記考証 附録しのふやまものか

たり 全五冊／浪華書林 北尾春星堂藏」【序】「天保六

年十月十五日 野之口隆正」【廣告】「野之口隆正大人著

述近刻書目」〈通略延約弁〉「語格直言」計十六点、

一・五丁）【奥付】（廣告最終丁に続けて同丁に）「于時

天保丙申七発行／書肆 江戸 丁子屋平兵衛／田中長蔵
／京 和泉屋吉兵衛／京 戎屋市右衛門／大坂 藤屋弥
兵衛／藤屋善七。

【所見本】岩瀬。

【諸本】見返しを「天保八丁酉新鑄」、奥付を「于時天
保八丁酉発行」と入れ木で修正（パークレー三井）。

【記録】〔大坂開板〕蔵板主 野々口正作、売弘 藤屋
善七、出願 天保七年七月、許可 天保八年二月。

81 鵜殿余野子 月なみ消息 天保七十二年頃求板力

（文化四年跋刊） 大本一冊 消息

【奥書】「真測」【跋】「文化四年はつ秋 千蔭」【奥付】「山
口栞 既刻／友鏡底廻影 追刻／詞の道しるべ 同／奈
末之奈 同／類聚雅俗言 同／さし出の磯 同／磯のす
崎 同／月草 同／於乎軽重義 同／玉の緒くりわけ
同／製本所 寺町通蛸薬師下ル町恵比須屋市右衛門」。

【所見本】東京都加賀。

【諸本】【早印本①】（文化五年） 奥付「文化五年戊辰四
月発行／彫工 鈴木栄二／江戸書肆 瑞玉堂 大和田安
兵衛／文刻堂 西村源六／東陽堂 永楽屋西四郎」（佐賀

県）。【早印本②】（文政七年求板） 奥付「千蔭大人書浅紅
帖 正面摺出来／文政七年甲申求板／江戸書林 日本橋
通三丁目玉山堂山城屋佐兵衛」（大洲市矢野）。

奥付広告掲載書目のうち、「既刻」とされる『山口栞』
が天保七年刊、「追刻」とされる書目のうち、最も刊
行の早い『玉の緒くりわけ』が同十二年刊であるこ
とから推定。

82 飢饉の時乃食物の大略 天保八年刊 半紙本一冊

共紙表紙 救荒書

【奥書】「天保八年丁酉二月 三河国 吉田藩 中山弥
助美石／（中略）さて人々の扶助を以て印施せり」【奥
付】「印施取次所 江州 大津 吉田蔵屋敷／大坂
吉田用場／吉田 城内 地方役所／同 船町川岸 佐藤
次郎八／同 北金屋村鑄物師 中尾与惣次／遠州 新居
宿 高須嘉兵衛／京都 寺町錦小路上ル 城戸市右衛
門」。

【所見本】慶大。

【諸本】【後印本】（増補、万延元年） 序「万延元年庚申
神嘗月／三河国羽田文庫之文預羽田塾敬雄」、前付け増補

「天保九年戊戌六月／或君より其御領民等へ被仰示候御直書之写」（二丁分）、本文増補「上件にもれたる食物となるべき品」（前掲早印本の本文最終丁に続けて五丁分）、跋「万延元年十一月中の卯月 中山繁樹」。また、前掲早印本の奥書から「さて人々の扶助を以て印施せり」の文を削除し、奥付も付さず（京大蔵）。

83 伊勢貞丈 秋草 天保八年跋刊 大本三冊 有職故実

【奥書】「安永六年丁酉九月廿八日 伊勢平蔵平貞丈」
【跋】「天保八年三月 長沢伴雄」【奥付】「発行書林 紀州若山新通二丁目 加勢田屋平右衛門／同所中ノ島坂本屋喜市郎／同所寄合町 錢屋喜十郎／同所 坂本屋大次郎／尾州名古屋本町 永楽屋東四郎／京都寺町通蛸葉師下ル町 蛭子屋市右衛門／大阪心齋橋筋安堂寺町 秋田屋太右衛門／江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛／同通四丁目 須原屋佐助／同本銀町貳丁目 永楽屋東四郎」。

【所見本】東京芸大脇本。

84 西田直養 金石年表 天保九年刊 半紙本一冊 考古

【序①】「天保戊戌季秋／幕府内史格屋代大郎源詮丈時八十一手痛不能正楷」【序②】「天保九年戊戌仲秋／森可弼撰并書」【跋】「天保九年八月はかりおなし殿につかへまつる山名豊樹しるす」【奥付】「筱舎蔵板／金石志近刻五冊／天保九年戊戌仲秋／発兌書林 京都 蛭子屋市右衛門／浪華 河内屋儀助／東都 岡田屋嘉七」。

【所見本】国文研（ヤ〇一五三）。

85 義門 活語雑話 初編 天保十年刊 大本一冊 語学

【序①】「天保九年閏四月 みさと人城戸千楯」【序②】「天保と云ふとしのハしまりて四とせになれる春のなかはなる月のとをかふつかの日／若狭義門」【奥書】「天保九年四月二十三日也」【刊記】「天保十年己亥二月刊成」【刻印】「白雲城下白雪楼蔵板」（奥書と同丁）【奥付】（広告「山口栞」）「玉の緒くりわけ」計十点に続けて同丁に「製本所 寺町通蛸葉下ル町 恵比須屋市右衛門」。

【所見本】 函館市。

86 義門 活語雑話 二編 天保十一年刊 大本一冊
語学

【序①】「天保十年三月 京 大橋長広」【序②】「天保十年といふとしのむつきのつこもりみかの日真宗義門」

【刊記】「天保十一年庚子八月刊成 (刻印「白雲城下白雪楼蔵板」) (本文最終丁と同丁) 【奥付】(広告「山口菜」)「玉の緒くりわけ」計十点に続けて同丁に」製本所 寺町通蛸葉下ル町 恵比須屋市右衛門」。

【所見本】 神宮文庫(四二二)

【諸本】同板本 || 奥付(広告「活語指南」)「やまと玉のひ」計八点に続けて同丁に)「製本所 江戸芝神明前三島町 岡田屋嘉七 / 大坂心斎橋安土町角 河内屋儀助 / 皇都寺町通錦小路上ル 戎屋市右衛門」(多和文庫)。

▲87 岡部春平 禁秘響 天保十一年序刊 大本一冊
和学

【序】「天保十一年八月 城戸千楯」【跋】「森田春郷」。

【所見本】 北野天満宮。

所見本には、裏表紙見返しに「嘉永四辛亥初秋 / 奉納 / 願主 城戸市右衛門」という書き入れがある。北野天満宮への書籍奉納は、板元が行うのが通例であるから、恵比須屋が該書の出版に関与した可能性は高いが、管見のかぎり刊記や記録等からその裏付けは得られなかった。

88 森長見 国学志員 天保十二年求板(天明七年刊)
大本三冊 随筆

【序①】「天明丁未乃年秋七月難波津の蘆辺にかくれすむあま入るす」【序②】「讃岐国多度郡堀江 / 森助左衛門長見 / 天明三とせ秋のなかば / 月乃夜すから筆をそむる」【跋】「天明歳次甲辰三月 / 同郡屏風浦 / 三谷景信立民」【刊記】(跋文最終丁と同丁に入れ木で)「天保辛丑 / 皇都書林 東洞院二条上ル町 佐野勝助 / 三条柳馬場 / 皇都書林 東洞院二条上ル町 佐野勝助 / 三条柳馬場 東角 辻本仁兵衛 / 寺町錦小路上ル町 城戸市右衛門」。

【所見本】 刈谷市村上。

【諸本】早印本(天明七年) || 刊記(跋文最終丁と同丁に)「広浜堂蔵版」、広告「崇高堂蔵板目録 大坂心斎橋筋南久宝寺町 河内屋八兵衛」(「算法統宗大成」)「唐

詩朗詠集」計一丁)、奥付「天明七年丁未秋九月開彫／京師 二条通柳馬場東入町 林伊兵衛／江戸 本石町十軒店 山崎金兵衛／大坂 心齋橋筋南久宝寺町 泉本八兵衛」(国文研石野)。

【記録】(大坂板木(文化))「河八」。

89 本居宣長 玉くしげ 天保十三年求板(寛政元年刊)

大本一冊 和学

【序】「時は寛マタけき政と改まりて。天ノ下よろこび栄ゆるはじめの年乃春のなかば。かくいふは／尾張の殿人／横井千秋」【刊記】「寛政元年十一月刻成／天保十三年壬寅正月求板／京都書林 寺町通蛸薬師下ル町 城戸市右衛門」(本文最終丁ウラ)。

【所見本】京大人文研松本。

【諸本】早印本①(寛政元年) 〓本文最終丁(三五丁)ウラに、刊記「寛政元年十一月／名児屋 越智広海蔵板／取次書林 尾張名児屋玉屋町 藤屋吉兵衛／伊勢松坂 日野町 柏屋兵助」(岐阜県)。早印本②(寛政元年) 〓早印本①の刊記の「取次書林」以下を入れ木で修正し、「発行書林 江戸日本橋壹丁目 須原屋茂兵衛／勢州松

坂日野町 柏屋兵助／尾州名古屋玉屋町 永樂屋東四郎」、またその後に「尾張書肆東壁堂製本目録」(「古事記伝」く「和名抄」計一丁)を付す(静岡県葵)。

【記録】(大坂買板)文久二年七月に、半株として恵比須屋市右衛門から河内屋和助が板株購入。

90 義門 なましな 天保十三年刊 大本三冊 歌学

【序】「天保戊戌夏識於高倉講師寮／雲華大舍」【奥付】「天保十三年壬寅三月刊成／(広告)「活語指南」く「さしてのいそ」計六点)／製本所 皇都寺町通錦小路上ル 戎屋市右衛門／江戸芝明神前三島町 岡田屋嘉七／大坂心齋橋安土町角 河内屋儀助」。

【所見本】パークレー三井。

【諸本】小浜市

【記録】(大坂買板)文久二年に丸株として恵比須屋市右衛門から河内屋茂兵衛が板株購入。

91 義門 活語雑話 三編 天保十三年刊 大本一冊 歌学

【序①】「庚子冬十二月望 大江東平」【奥書】「霜月十

日にて年八庚子のといふ天保十一年／釈義門」【跋】（無署名）【刊記】「天保壬寅九月刊成（刻印「白雲城下白雪楼蔵板」）（跋と同丁）【奥付】（広告「活語指南」）「やまと玉のひ」計八点に続けて同丁に）「製本所 江戸芝神明前三島町 岡田屋嘉七／大坂心斎橋安土町角 河内屋儀助／皇郡寺町通錦小路上ル 戎屋市右衛門」。

【所見本】神宮文庫（四十二）。

92 義門 指出の磯 磯のすさき 天保十四年刊 大本一冊 語学

【題辞】「文政三年庚辰十月十四日 大平」【序】「天保十三年三月 本居内遠」【奥付】「天保十四年癸卯八月刊成／製本弘所 若州小浜大津町 松本屋利兵衛／京寺町通蛸薬師下ル 蛭子屋市右衛門／江戸芝神明前三嶋町 岡田屋嘉七／大坂心斎橋安土町角 河内屋儀助」【書袋】「〔本居先生哥并序／妙玄大徳筆録〕／〔活語指南 二冊已刻／奈万之奈 三冊同／山口栞 三巻同／玉の緒線分 五冊近刻／類聚雅俗言 二冊嗣刻／いそ清水 一冊同〕／〔さしでの磯／磯のすさき〕合冊／製本所 〔松本屋利兵衛／蛭子屋市右衛門／岡田屋嘉七／河内屋儀

助〕」。

【所見本】パークレー三井。

【記録】（大坂買板）文久二年に四軒之三軒前として恵比須屋市右衛門から河内屋茂兵衛が板株購入。

93 義門 活語指南 天保十五年刊 大本二冊 語学

【見返し】「義門師脱稿／重民翁補成」／活語指南 二冊／（説明文省略）三都書林 合梓」【序①】「ひら井重民」【序②】「ひら井の友青山茂春」【序③】「天保十一といふとしの十月望八かり筆を白雪楼に閣く」【跋】「天保十二年三月廿七日／上毛野国甘楽郡高瀬里人 新井守村」【広告】「若狭妙玄寺義門大徳著述目録」（山口栞）「月草」計十六点）【奥付】「天保十五年甲辰年孟春／発行書肆 京都 勝村治右衛門／蛭子屋市右衛門／大坂 河内屋儀助／江戸 英屋大助／岡田屋嘉七」。

【所見本】国文研高乗。

【諸本】後印本 前掲奥付の後に、別の奥付「書肆 京都三條通升屋町 出雲寺文次郎／同寺町通松屋下ル 勝村治右衛門／大坂心斎橋通北久太郎町 河内屋喜兵衛／同安堂寺町 秋田屋太右衛門／江戸日本橋壹丁目 須原

屋茂兵衛／同本町通横山町壹丁目 出雲寺万次郎／同芝
神明前 岡田屋嘉七」を付す（旧大阪女子大八一五・四
一G一〇二）。

94 松田直兄 藤園雜歌 弘化四年刊 大本四冊 歌集

【見返し】「直兄集主家集／藤園雜歌 全四冊／塾中蔵」

【序】「弘化三年正月十日はかり（中略）／正四位下備
中介賀茂県主常香」【広告】「松田直兄大人著述／（言
葉直路）く「垣根の小艸」計九点／皇都書肆 出雲寺文
次郎」【刊記】「弘化四年丁未夏発行／弘所書林 江戸

横山一丁目 出雲寺万次郎／芝神明前 岡田屋嘉七／大
坂 心齋橋北久太郎町 河内屋喜兵衛／心齋橋南二丁目
敦賀屋九兵衛／皇都 寺町通蛸薬師下町 夷屋市右衛
門／三條通高倉東へ入町 出雲寺文次郎」（広告ウラ）。

【所見本】神宮文庫。

【記録】〈京都赦免〉「同人（青山注——出雲寺文次郎）
より売出し不_レ申、蔵板主江板木戻ス」。

95 松田直兄 伊勢物語題号考 弘化四年刊 大本一冊
物語

【序】「天保十五年八月のはしめ／正四位賀茂県主重誠
誌」【広告】「松田直兄大人著述／（言葉直路）く「垣
根の小艸」計九点／皇都書肆 出雲寺文次郎」【刊記】「弘
化四年丁未夏発行／弘所書林 江戸 横山一丁目 出雲
寺万次郎／芝神明前 岡田屋嘉七／大坂 心齋橋北久太
郎町 河内屋喜兵衛／心齋橋南二丁目 敦賀屋九兵衛／
皇都 寺町通蛸薬師下町 夷屋市右衛門／三條通高倉東
へ入町 出雲寺文次郎」（広告ウラ）。

【所見本】国文研初雁。

96 中島広足 しのすだれ 嘉永元年刊 大本一冊 歌
集

【見返し】「中島広足翁詠／志能数多礼／社中蔵」【序】

「嘉永元年しはすの未つかた肥前国島原乃老樵／中村大
蔭」【跋】「嘉永とあらたまれる年のさつきのみかは肥の
みちのしりの国人中島広徳しるす」【刊記】「檀園大人著
述刻成書目／（広告「不知火考」）く「かしのくち葉」計
十一點／嘉永元年戊申年十一月／書林 京 城戸市右
衛門／江戸 英大助／大坂 田中屋太右衛門／肥後熊本
珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右衛門／長崎 小野左右

助」(跋ウラ)。

【所見本】 大阪市大森。

【諸本】 〔後印本〕(嘉永六年) 前掲刊記なく、替わりに奥付「樞園大人著述目録／(「不知火考」) 窓乃小篠」計二十点) 嘉永六癸丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／長崎 小野左右助」を付す(刈谷市村上)。

97 尾崎雅嘉 和歌幣袋 嘉永二年修(寛政八年刊)

半紙三つ切本一冊 歌学

【見返し】 「倭歌ぬさ袋」【序①】 「雅嘉」【序②】 「伴光長識」【序③】 「寛政乙卯季冬／尾崎雅嘉識」【奥付】 「寛政八年辰九月癸兌／嘉永二年酉四月補刻／江戸 須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／英大助／岡田屋嘉七／京 出雲寺文治郎／蛭子屋市郎兵衛／大坂書林 秋田屋太右衛門／柏原屋清右衛門／河内屋茂兵衛／河内屋源七郎／細屋茂兵衛／河内屋徳兵衛／伊丹屋善兵衛」。

【所見本】 盛岡市。

【諸本】 〔異板本〕(寛政十一年) 奥付「寛政十一年己未

歳四月／京 額田正三郎／江戸 須原茂兵衛／同 西村源六／同 同 宗七／大坂 鳥飼市左衛門／同 渋川清右衛門／同 増田源兵衛／同 葛城長兵衛」(大阪市大森)。

98 萩原広道 葉山の葉 嘉永三年刊 中本一冊 歌学

【見返し】 「嘉永庚戌新刻／萩原葭治先生著／詞書葉山乃葉／書肆 四徳堂合梓」【序】 「嘉永とまをすミよのはしめのとしなか月のはつかあまりいつかの日たひらの東雄」【跋】 「嘉永元年戊申秋九月廿六日書於浪華高麗橋寓居」【奥付】 「嘉永三庚戌歳春癸兌／三都書林 京都 恵比須屋市右衛門／江都 山城屋佐兵衛／浪華 藤屋善七／河内屋清七／藤屋禹三郎／河内屋喜兵衛」。

【所見本】 早大。

【諸本】 〔後印本①〕 奥付「心齋橋安土街 墨香居 藤屋禹三郎」(弘前市二七二一三八一)。
〔後印本②〕 廣告「心のたね／詞書葉山の葉／心の種拾遺／古言訳解／本学提綱／浪華書林 積玉圃主人識」(廣告文省略)、奥付「発行書肆 吉野屋仁兵衛／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／和泉屋金右

衛門／岡村屋庄助／永楽屋東四郎／万屋東平／菱屋藤兵衛／菱屋平兵衛／河内屋喜兵衛板」（書肆所在地省略、金沢市稼堂）。

〔後印本③〕「廣告」心のたね／詞書葉山の葉／心の種拾遺／古言訳解／本学提綱／浪華書林 積玉圃主人識」（廣告文省略）、奥付「発行書房 須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／山形屋伝右衛門／吉野屋仁兵衛／永楽屋東四郎／菱屋藤兵衛／菱屋平兵衛／河内屋喜兵衛板」（書肆所在地省略、盛岡市）。

〔後印本④〕「奥付」廣告「袖中大和詞大成／諸国／方言」物類称呼／「発句／注解」俳諧故事談」（廣告文省略）／浪華書林 心齋橋通北久宝寺町 河内屋源七郎板」（白杵市）。

99 萩原広道 詠歌心の種（心の種） 嘉永三年刊 中本二冊 歌学

〔見返し〕「嘉永庚戌新刻／萩原葭治先生著／詠歌ころの種／浪華 四徳堂合梓」【序】「嘉永のはしめの年長月のとをかあまり／萩原広道」【跋】「広道再識」【廣告】「心のたね／詞書葉山の葉／心の種拾遺／古言訳解／本学提綱／浪華書林 積玉圃主人識」（廣告文省略）【奥付】

「嘉永三庚戌歳春発兌／三都書林 京都 恵比須屋市右衛門／江都 山城屋佐兵衛／浪華 藤屋善七／河内屋清七／藤屋禹三郎／河内屋喜兵衛」（奥付は98『葉山の葉』と同板）。

〔所見本〕弘前市。

【諸本】〔後印本①〕「奥付」書林 河内屋藤四郎／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／河内屋藤兵衛／河内屋茂兵衛板」（書肆所在地省略、大阪市大森）。

〔印本②〕「奥付」発行書房 須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／山形屋伝右衛門／吉野屋仁兵衛／永楽屋東四郎／菱屋藤兵衛／菱屋平兵衛／河内屋喜兵衛板」（書肆所在地省略、京都女子大吉沢）。

〔98『葉山の葉』と同板）。

〔後印本③〕「奥付」和漢書籍弘通所／書肆 大阪心齋橋筋安土町北へ入 北尾墨香居／藤屋禹三郎」（酒田市光丘）。

100 萩原広道（編） 近世名家遺文集覧 嘉永三年刊 中本二冊 和文集

〔見返し〕「嘉永庚戌新刻／萩原先生選評／近世名家遺

文集覽／書肆 「春星堂／墨香居」 【序】「嘉永二年冬
かむな月 萩原広道」 【奥付】「浪華 萩原広道輯併評／
嘉永三庚戌歳秋発兌／三都書林 京都 恵比須屋市右衛
門／浪華 藤屋善七／藤屋禹三郎／江都 山城屋佐兵衛
／須原屋茂兵衛」。

【所見本】書陵部。

【諸本】後印本① 前掲奥付の替わりに、別の奥付「書
肆 江戸日本橋南壹丁目 須原屋茂兵衛／同貳丁目 山
城屋佐兵衛／同下谷池端仲町 岡村庄助／同通本銀町
永楽屋東四郎／大阪心齋橋北久太郎町 河内屋喜兵衛
板」を付す（新潟大佐野）。後印本② 前掲奥付の替わ
りに、奥付「諸本仕入所 京都東洞院二條上ル町 田中
屋治助」を付す（弘前市）。

101 長沢伴雄（編） 類題鴨川次郎集 嘉永三年序刊
中本二冊 類題集

【序】「嘉永三年二月の／はしめ／伊予守賀茂原主直兄」
【跋】「伴雄／延年書」 【刊記】「絡石舎藏板」 【広告】（前
掲刊記に続けて同丁に）「鴨川三郎集 次刻 二冊／和
歌作例集二編同 四冊／詠史歌集 同 二冊／涙痕集

同 五冊／呼子鳥 同 四冊／通計五部」（同丁ウラに、
鈴木高輶編『玉石集』に言及した伴雄の識語あり） 【奥
付】「発行書林 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山
城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城
戸市右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／若山
阪本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】盛岡市（三二一）。

102 岩政信比古 本末歌の解 嘉永三年序刊 大本一冊

歌学

【序】「嘉永三とせ三月はかり／出雲宿禰尊澄／后梅舎
書」 【奥書】「文化十四年夏岩政要吉越智須久彌信比古謹
註畢」 【刊記】「桜戸藏板」（奥書ウラ） 【奥付】（広告）「岩
政大人著述書目」／「豊受神のみたま」く「物語詞林」
計五点に続けて同丁に）「発行書林 京寺町通 夷子屋
市右衛門／江戸日本橋通 須原屋茂兵衛／大阪心齋橋通
柏原屋清右衛門」。

【所見本】神宮文庫（三二二七九）

【諸本】後印本 奥付「須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／
和泉屋吉兵衛／小川多左工門／出雲寺文次郎／総田屋平

右工門／帶屋伊兵衛／柏原屋清右工門／柏原屋武助〔書肆所在地省略〕（宇部市新井）。

【記録】（大坂出勤）嘉永六年十月五日「柏清より、本末哥解上ヶ本出来」。

103 鈴木高輅 類題玉石集 嘉永四年刊 中本二冊 類題集

【見返し】「鈴木高輅大人輯／類題玉石集 二卷／〔宋榮堂／求古齋〕合梓」【題辭】「千種有功」【序①】弘化五年三月 長門静間三積【序②】嘉永とあらたまれるとの九月の廿かあまり三日の日 中島広足【跋】「嘉永二年の春／安芸広島殿人 市川音澄」【奥付①】「周防宮市駅／鈴木高輅輯／玉石集二編 近刻／同 長歌集全／同 文集 全／嘉永四年亥十月発兌／書房 大坂 秋田屋太右衛門／広島 井筒屋忠八郎」（跋の次の丁のウラ〈オモテは白紙〉）【奥付②】「京 蛭子屋市右衛門／江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋佐兵衛／大坂 河内屋喜兵衛／尾張名古屋 永樂屋東四郎／紀伊若山 坂本屋喜市郎／安芸広島 世並屋伊兵衛／長門萩 山城屋孫四郎／周防徳山 朝田屋孫兵衛／同宮市 藤屋

文左衛門」。

【所見本】パークレー三井。

【諸本】奥付①を欠く（刈谷市村上）。

104 長沢伴雄（編） 類題鴨川三郎集 嘉永四年刊 中本二冊 類題集

【見返し】「長沢伴雄大人編輯／類題鴨川三郎集 二冊／絡石軒社中藏」【跋】「伴雄」【刊記】「絡石舎藏板」【廣告①】（刊記に続けて同丁に）「鴨河四郎集 次刻 二冊／和歌作例集二編 同 四冊／詠史歌集 同 二冊／涙痕集 同 五冊／呼子鳥 同 四冊／通計五部」【廣告②】「御詠艸取次所 京都六角通寺町西 上田龜齡館／大坂心齋橋安堂寺町 秋田屋太右工門／和歌山駿河町 坂本屋喜一郎／同 昌平河岸 坂本屋大二郎／（廣告文省略）【奥付】「嘉永四年辛亥十一月／發行書林 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城戸市右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／若山 阪本屋大治郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】大阪市大森。

105 長沢伴雄 類題和歌作例集 嘉永四年印（弘化五年刊） 中本四冊 歌集

【見返し】「長澤伴雄大人輯／類題和歌作例集」〔全部／四冊〕／絡石舎社中蔵板」【序】「弘化四年卯月はかり／正三位有功」【凡例】「長澤伴雄」【刊記】「絡石舎社中蔵板（二編／嗣刻）」（本文最終丁ウラ）【奥付】「嘉永四年辛亥十一月／発行書肆 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城戸市右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／紀州 阪本屋大治郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】和歌山県紀州藩。

【諸本】**早印本** Ⅱ 広告「長澤伴雄先生著述書目」（兵器図考証） Ⅲ 「絡石の落葉」 計三丁）、奥付「弘化五戊申年三月／発行書肆 江戸 須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／英大助／須原屋伊八／岡田屋嘉七／京 勝村治右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／紀州若山 坂本屋喜一郎」（大阪府）

和歌山県紀州藩文庫本の奥付は、**104** 『類題鴨川三郎集』 大阪市大森文庫本と同板。

106 富永芳久 出雲国名所歌集 初編 嘉永四年跋刊 半紙本一冊 歌集

【見返し】「富永芳久大人撰／出雲国名所歌集／浪華岡田群玉堂梓」【序①】「于時嘉永四年秋八月望／北越隠士 源成名誌／南紀山樵 橘易興書」【序②】「嘉永のよとせといふ年の春／みなもとの芳久」【跋】「嘉永四年八月 大舍人寮史生高階朝臣三子」【広告】「富永芳久大人著述書目／（「出雲風土記仮名文」） Ⅲ 「出雲国名所歌集初編」 Ⅳ 「同」 二編 三編 計十九点、一丁）【奥付】（前掲広告に続けて同丁ウラに）「書林 京 恵美須屋市右衛門／江戸 英大助／紀州 坂本屋大二郎／雲州 和泉屋助右衛門／大阪 心齋橋通博勞町 河内屋茂兵衛」。

【所見本】岩瀬。

【記録】〈京都重板〉文久元年八月十六日「嘉永五子年三月十四日願上／同四月廿八日御免」。

芦田耕一・蒲生倫子『出雲国名所歌集——翻刻と解説』（ワンライン、二〇〇六年）を参照。

107 楫取魚彦 櫓の婦手 嘉永四年刊後印 大本五冊

辞書

【序】「嘉永四年春／柿園のあるし／諸平」【刊記】（広告「和歌露分衣」の後に続けて同丁に）「楫取魚彦著／嘉永四年辛亥年暮秋日／大阪書肆 南久宝寺町五丁目 伊丹屋善兵衛／本町貳丁目 奈良屋長兵衛」（本文最終丁ウラ）【奥付】「発行書肆 江戸 須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／和泉屋吉兵衛／岡田屋嘉七／英大助／名古屋 永樂屋東四郎／若山 阪本屋喜市郎／京都 蛭子屋市右エ門／田中屋治助／大阪 河内屋喜兵衛／秋田屋太右エ門／奈良屋吉兵衛」。

【所見本】早大。

【諸本】【後印本】前掲奥付の替わりに、別の奥付「須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／和泉屋金右衛門／岡田屋嘉七／出雲寺文治郎／紙屋惣右衛門／榎並屋小兵衛／近江屋平助／伊丹屋善兵衛」（書肆所在地省略）を付す（国文研高乗）。

【記録】（大坂出勤）嘉永五年一月二十日「奈良長より、槽の孀手、辛亥六月、同人丁内年寄布屋嘉兵衛奥印二而願出、同年九月御免二相成候」。

108 富士谷成章 和歌梯 恋部 嘉永五年刊 中本二冊

歌学

【刊記】「和歌梯雑之部 近刻／嘉永五年壬子正月／皇都書肆 寺町通三条下ル町 神先宗八／寺町通蛸葉師下ル町 城戸市右衛門／寺町通五条上ル町 葛西市郎兵衛」（本文最終丁ウラ）【広告】「京都書林神先向松堂蔵板目錄 寺町通三条下ル町著屋宗八／（四書集註頭書）『類聚方集覽広義』／京都書肆 向松堂 寺町通三条下ル町著屋宗八」（計二・五丁）

【所見本】架蔵。

【諸本】【後印本】前掲広告の替わりに、別の奥付「駿台雑話 五冊／訳文須知 五冊／出定後語 二冊／橘窓茶話 三冊／小学紺珠 五冊／医書字引 一冊／雲根志十五冊／絵本故事談 九冊／小笠原百箇條 一冊／同諸礼大全（一冊／三冊）／新井流真勢流易書類製本所／浪華書林 心齋橋安土町南江入東側 河内屋和助梓」を付す（刈谷市村上）。

【記録】（大坂板木（文化））「京 相 河和 河喜 河茂」。（大坂買板）文久二年七月に廿四軒之老軒前として恵比須屋市右衛門から河内屋和助および河内屋喜兵衛が

板株購入。

109 岩政信比古 止由気の御靈 嘉永五年序刊 大本一冊 神書

【序①】「嘉永五年二月／出雲宿禰俊榮」【序②】「時は嘉永五とせの後の二月始つかた／出雲宿禰尊澄／中臣正蔭書」【奥書】「文化十四年といふとしの夏／桜処のあるし 越智信比古述」【跋】「神門守手」【広告①】「桜処岩政先生著述書目／止由気の御靈 全一冊／本末哥の解 全一冊／物語詞林 全五冊／まなひの費 全一冊／てらつゞき 全二冊／古事記伝異考 全二冊」(柱刻「書目一」)【広告②】「千歳舎御著述書目／神恩記／松壺文集／歌神考／湯あみの日次／雲井の月／鶴乃羽衣」(冊数・広告文省略) (広告①ウラ) 【広告文】「臣中村守手誌」(「千歳舎御著述書目」を掲載した所以を述べる。該本では跋の後、広告①の前に置かれていたが、柱刻に「書目 二」とあることから明らかに錯簡であり、本来広告①の後に置かれるべきである) 【刊記】「桜戸蔵板」(広告文ウラ) 【奥付】「岩政大人著述書目／豊受神のみたま 全一冊／学の費 全一冊／本末歌の解 全一冊／てら

つゞき 全一冊／物語詞林 全五冊／発行書肆 京寺町通 夷子屋市右衛門／江戸日本橋通 須原屋茂兵衛／大阪心齋橋通 柏原屋清右衛門」。

【所見本】東大宗教(三五七・七二・九)

【諸本】**早印本**(嘉永六年の奥付を持つが、版面からすると早印) 〓奥付「嘉永六年癸丑九月／書肆 名古屋 永楽屋東四郎／若山 阪本屋喜一郎／同 同 大次郎／同 総田屋平右エ門／同 帶屋伊兵衛／大阪 柏原屋清右衛門」(岩瀬)。 **後印本** 〓奥付「書肆 伊勢津 山形屋 伝右衛門／紀州若山 坂本屋喜一郎／同 坂本屋大次郎／同 帶屋伊兵衛／備前岡山 中島屋益吉／同 片上屋 孫兵衛／兵庫本町 油屋庄五郎／大阪順慶町五丁目 柏屋藤助／同順慶町心齋橋 柏原屋武助／同順慶町五丁目 柏原屋与左衛門／同順慶町心齋橋 柏原屋清右衛門」(東大宗教三五七・七二・一〇)。

【記録】(大坂出勤) 嘉永六年九月二十日「柏清より、止由気能御靈願出」。

110 長沢伴雄 類題鴨川四郎集 嘉永五年跋刊 中本二冊 類題集

【見返し】「長沢伴雄大人編輯／類題鴨川四郎集 二冊
／絡石軒社中蔵」【序】「竹の屋／春臣」【跋】「嘉永五年
十二月 伴雄」【廣告①】「御詠草取次所 京都四条通富
小路 和泉屋治兵衛／大坂心齋橋安堂寺町 秋田屋太右
衛門／若山駿河町 坂本屋喜一郎／同昌平河岸 坂本屋
大二郎／（廣告文省略）／京都上田亀齡館転宅 二付同家
へ御差向の事ハ御無用ニ可成下候」（姓名録最終丁ウラ）

【廣告②】「長沢伴雄先生著 神風挫夷軍談 画図入
初編六冊／（廣告文省略）／同先生編 詠史歌集二編

二冊／鴨河五郎集 二冊／浪華穉府 三書房誌」【奥付】
「発行書林 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋
佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城戸市
右衛門／大坂 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／若山 阪
本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】大阪市大森。

111 長沢伴雄 詠史歌集 嘉永六年刊 中本二冊 類題
集

【見返し】「長沢伴雄大人編輯／詠史歌集 初編／絡石
舎社中蔵」【序①】「嘉永五年八月十五日 洛西隠士飄々

斎／新錦陳人行納書」【序②】「嘉永五年十一月 長沢伴
雄」【廣告】「長沢先生著述之中次刻目錄」（呼子鳥）
「絡石の落葉初編」計六点）【奥付】「絡石舎蔵板／嘉永
六癸丑年／発行書林 江戸 須原屋茂兵衛／須原屋伊八
／京 田中屋治助／恵美須屋市右衛門／大坂 秋田屋太
右衛門／秋田屋治助／若山 阪本屋喜一郎／阪本屋大二
郎」。

【所見本】バークレー三井。

112 中島広足 敏鎌 嘉永六年刊 大本一冊 和学

【見返し】「中島広足翁著／敏鎌／社中蔵」【序①】「嘉
永辛亥首夏／長崎山本晴海題」【序②】「嘉永四年七月／
長沢伴雄」【奥付】廣告「檀園大人著述目錄」（「不知火
考」）「詞八衢補遺」計十八点に続けて同丁に）「嘉永
六年癸丑二月／京 城戸市右エ門／江戸 英大助／大坂
田中太右エ門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋
太右エ門／長崎 小野左右助」。

【所見本】京大文。

113 中島広足 檜垣嬭家集補註 嘉永六年刊 大本二冊

歌学

右助」。

【所見本】刈谷市村上。

【見返し】「広足大人著／檜垣嫗家集補註／十千堂藏」【序
①】「前大宮司永章」【序②】「長瀬真幸／奉書之」【奥書】

岡中正行『中島広足の研究』（私家版、二〇一一年）

「文政七年十二月二日 中島広足」（上巻末尾）【跋①】

を参照。広足の著作については以下同じ。

「天保乙未秋日 海雲乞土亮泉識」【跋②】「遠霞大友参
書於露蕉風竹書房」【広告】「檀園大人著述目録 橘加受

115 中島広足 かたいと 嘉永六年刊 大本一冊 語学

比良誌」（「不知火考」）「窓乃小篠」計二十点 【奥付】

【見返し】「中島広足大人著／かたいと 全／社中藏」

（前掲広告の後に続けて）「嘉永六年癸丑二月／書林

【序】「嘉永六年六月のはしめつかた／中島広足」【広告】

京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門

「檀園大人著述目録」（「不知火考」）「窓乃小篠」計二

／肥後熊本／珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／同

十点 【奥付】（前掲広告に続けて同丁に）「嘉永六年癸

小野左右助」

丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪

【所見本】北海学園北駕。

田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋

114 中島広足 しのすだれ 第二集 嘉永六年刊 大本

【所見本】国会亀田。

一冊 歌集

【諸本】後印本 前掲奥付の後に、別の奥付「三都発行

【見返し】「中島広足翁詠／志廻数堂連 第二集／社中

書肆／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／和

藏」【奥付】「檀園大人著述目録」（「不知火考」）「窓

泉屋吉兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／須原屋伊八

乃小篠」計二十点）／嘉永六癸丑二月／書林 京 城戸

／勝村次右衛門／丸屋善兵衛／秋田屋太右衛門」（書肆

市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門／肥後熊

所在地省略）を付す（京大文 国文学五C一四一a）。

本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／長崎 小野左

116 中島広足 檀園文集 第一集 嘉永六年印（天保十年序刊） 大本一冊 和文集

【見返し】「中島広足著／檀園文集第一集／社中蔵」【序】「天保十年三月木谷忠英しるす」【跋】「道光二十年庚子清和月書於長崎旅舎／呉門沈萍香」【広告】「檀園大人著述目錄／（「不知火考」）「佐嘉日記」計三十点、一丁）」【奥付】「嘉永六年癸丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／長崎 小野左右助」。

【所見本】京大文

【諸本】広告「檀園大人著述目錄 橘加受比良誌／（不知火考）」、「一夜の夢」計一・五丁）、奥付（前掲広告の最終丁に続けて同丁に）「書林群玉堂 大坂心齋橋筋博労町 河内屋茂兵衛／書林十千堂 長崎 立身屋万兵衛」（神宮）。

117 中島広足 檀園集 嘉永六年印（天保十一年序刊）

大本三冊 歌集

【見返し】「中島広足著／檀園集／十千堂蔵」【序】「天保十年二月／丹波守藤原朝臣永章」【跋】「天保十年正月

廿八日筑紫のミちのしりえつまの郡なる大石大神につかへまつる船曳大滋長崎のたひやとりにしるす」【広告】「檀園大人著述目錄／（「不知火考」）「佐嘉日記」計三十点、一丁）」【奥付】「嘉永六年癸丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／長崎 小野左右助」。

【所見本】京大文

【諸本】前掲の序文の前に、別の序文「天保の十とせまり一とせむ月のとをかの日よくうちよみておもふまゝにしるす 橘守部」あり。広告「檀園大人著述目錄 橘加受比良誌／（不知火考）」、「一夜の夢」計一・五丁）、奥付（前掲広告の最終丁と同丁に）「書林群玉堂 大坂心齋橋筋博労町 河内屋茂兵衛／書林十千堂 長崎 立身屋万兵衛」（佐賀県）。

118 中島広足 樺島浪風記 嘉永六年刊 大本一冊 紀行

【見返し】「中島広足著／樺島浪風記 全／社中蔵」【序】「天保四年正月十五日／長崎乃里なる半田公磨しるす」

【奥書①】「文政十一年八月 中島広足」(一三四ウラ)

【奥書②】「おなじ年のかミな月のはじめにするす」(二

二丁ウラ) 【識語】「浪風記拜見かへす／＼めつらかなる

そのをりの事見るか如くおそろしくおほえ侍り (刻印

「大平」)(同丁) 【跋】「天保四年正月十五日檀園のあ

るじ長崎のたびやどりにてふたたび此よしをしるしぬ」

(二四丁ウラ) 【広告】「檀園大人著述目録」(「不知火考」

「佐嘉日記」計三十点、一丁) 【奥付】「嘉永六癸丑二

月／書林 京城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田

中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右

工門／長崎 小野左右助」。

【所見本】京大総。

119 都清水寺観世音靈驗図会 嘉永六年求板(元文三年

刊) 中本一冊 地誌

【刊記】「元文三戊午年二月 元版／宝曆三癸酉年 千

年忌／安永二癸巳年三月 開帳／寛政八丙辰年三月 同

／文化七庚午年 田村丸千年忌／同 九壬申年 江戸二

テ／天保十一庚子年三月 開帳／嘉永六癸丑年三月 同

／寺町蛸葉師下ル町 惠美須屋市右衛門／寺町五条上ル

町 山城屋佐兵衛／魚之棚新町西江入町 丁子屋嘉助」

(本文最終丁)。

【所見本】白鹿記念酒造博物館。

表紙に「嘉永六年丑三月十日ヨリ二十日ケ間御開帳」

とあり、清水寺開帳に当て込んで求板したと考えられ

る。

120 山内繁樹 常磐集 嘉永六年刊 中本一冊 歌集

【見返し】「山内繁樹大人歌集／熊代繁里大人訂正」／

常磐集 全一冊／発行書林 野田世寿堂 【序①】「藤垣

内のあるし／内遠」【序②】「嘉永六年八月四日 兄瓶」

【序③】「嘉永のむとせといふとしのきさらぎ／熊代繁

里」【跋】「山の内繁憲／桜蔭繁里書」【奥付①】「嘉永六

癸丑年発兌／京都 出雲寺文治郎／恵比須屋市右衛門／

江戸 須原屋茂兵衛／英文蔵／大阪 敦賀屋九兵衛／河

内屋太助／河内屋茂兵衛／秋田屋太右衛門／尾州名古屋

永楽屋東四郎／紀州若山 帯屋伊兵衛／勢州松阪 柏

屋兵助／阿州徳島 天満屋武兵衛／芸州広島 井筒屋忠

八郎／備州岡山 片上屋孫兵衛／雲州杵築 和泉屋助右

衛門／肥州長崎 辰巳屋万兵衛」【奥付②】「発行書林

江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／山城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助／城戸市右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／若山 阪本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】刈谷市村上

【諸本】奥付②の替わりに、別の奥付「常磐園蔵板／製本書林 紀州若山昌平河岸 阪本屋大二郎／同 駿河町 阪本屋喜一郎」を付す（神宮文庫）。

121 千家尊孫 類題真璞集 嘉永六年序刊 中本三冊
類題集

【序】「嘉永六年五月はかり／出雲宿禰尊澄」【奥付】「弘所 若山 帯屋伊兵衛／坂本屋大二郎／姫路 灰屋輔二／名古屋 永楽屋東四郎／出雲大社 和泉屋助右衛門／江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七／京都 近江屋佐太郎／恵比須屋市右衛門／大阪 柏原屋与左衛門／柏原屋清右衛門」。

【所見本】大阪市大森。

122 富永芳久 出雲国名所歌集 二編 嘉永六年序刊

中本一冊 歌集

【題辭】「醍醐三位中将藤原忠順卿」【序①】「本居豊穎」【序②】「みなもとの富永芳久／嘉永六年五月」【広告】「富永大人著述書目 書肆 群玉堂（出雲大神宮驗記）」「出雲国名所歌集三編」計十五点【刊記】（前掲広告の同丁ウラに続けて）「発行 京都 恵美須屋市右衛門／江戸 山城屋佐兵衛／紀州若山 坂本屋大二郎／尾州名古屋 永楽屋東四郎／濃州大垣 茶屋源蔵／奥州会津若松 山形屋三右衛門」【奥付】「阿州徳島 天満屋武兵衛／播州姫路 灰屋長兵衛／備前岡山 片上屋孫兵衛／芸州広島 世並屋伊兵衛／雲州松江 尼崎屋喜三右エ門／同杵築 和泉屋助右衛門／肥前長崎 原田惣兵衛／肥後熊本 橘屋儀助／長州萩 山城屋彦八／大阪心齋橋筋博労町角 河内屋茂兵衛」。

【所見本】刈谷市村上。

実際の刊行は、安政三年十一月（中澤伸弘『徳川時代後期出雲歌壇と国学』錦正社、二〇〇七年、一七八頁）。

123 堀尾光久 名所家集 二編 嘉永七年刊 中本三冊

歌集

【見返し】「堀尾光久大人編輯／西田惟恒大人校正」／
名所歌集 二編 三冊／木国府下 四書房 【序①】署

名なし 【序②】「嘉永四年三月／松平忠昌／木国三名郡
里人／源繁里書」【跋】「嘉永の四とせといふとしの春し
るす／出雲大神宮禰宜 源芳久／伊勢袖岡山下隠士 源
以成書」【広告】「紀伊国名所百首」～「落葉の錦」計六

点（作者姓名録最終「丁ウラ」）【奥付】「嘉永七甲寅年九月
／書林 京都 恵美須屋市右衛門／江戸 須原屋茂兵衛
／大阪 秋田屋太右衛門／若山 帯屋伊兵衛／総田屋平
右衛門／阪本屋喜一郎／阪本屋大二郎」。

【所見本】大阪市大森。

124 長沢伴雄 類題鴨川五郎集 嘉永七年序刊 中本二
冊 類題集

【見返し】「長沢伴雄大人編輯／類題鴨川五郎集 二冊
／絡石軒社中蔵」【序】「嘉永七とせといふとし／春むつ
き／桂有彰」【奥書】「絡石舎のあろし」【跋】「佐保民雄」
【奥付】「発行書林 江戸 須原屋茂兵衛／岡田屋嘉七
／山城屋佐兵衛／須原屋伊八／英大助／京 田中屋治助

／城戸市右衛門／大阪 秋田屋治助／秋田屋太右衛門／
若山 阪本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。

【所見本】大阪市大森。

125 高階三子 新統紀伊国名所百首 嘉永七年序刊 半
紙本一冊 歌集

【見返し】「高階三子大人撰／新統紀伊国名所百首／若
山（青霞堂／世寿堂）合梓 【序】「嘉永七年正月 本居
豊穎／堀尾惟光／十四歳書」【跋】「嘉永七とせといふと
し乃はる ゆかハのあや」【広告】「菱舎大人著述書目」
（「紀伊国式社考」）～「高雄山紀行」計二十点（跋ウラ）

【奥付】（「類題和歌清渚集」「類題和歌玉藻集」「近世名
所和歌集」の広告の後に続けて同丁に）「発行書林 京
都 城戸市右衛門／大阪 河内屋茂兵衛／若山 帯屋伊
兵衛／阪本屋源兵衛／阪本屋大二郎／阪本屋喜一郎」。
【所見本】大阪府。

126 本居大平 餌袋日記 嘉永七年序刊 大本一冊 紀
行

【序】「嘉永七とせといふとしの三月晦日よる雨そほふ

る日しひてをりつるふる哥うちすしつゝ松壺にしてしるす／出雲宿禰尊澄／福田和夫書【奥書】「明和九年三月」

【跋】「本居内遠」【廣告①】「本居内遠先生著／（日本紀伝）ゝ「若の浦鶴」計一・五丁）／白石元重」【廣告

②】「松壺御著書類／（河の洩瀨）ゝ「懷橘談弁論」計二・五丁）／嘉永七年二月 佐々易直」【奥付】「発行書房 京 恵美須屋市右衛門／江戸 山城屋佐兵衛／紀州

若山 坂本屋大二郎／尾州名古屋 永楽屋東四郎／奥州会津若松 山形屋三右衛門／阿州徳嶋 天満屋武兵衛／

備前岡山 片上屋孫兵衛／播州姫路 灰屋長兵衛／雲州松江 尼崎屋喜三右衛門／同杵築 和泉屋助右衛門／肥

州長崎 原田惣兵衛／肥後熊本 橘屋儀助／大阪心斎橋通博労町角 河内屋茂兵衛」。

【所見本】国文研（ナ五二二五）。

【記録】〈大坂買板〉慶応元年十一月に須原屋茂兵衛から河内屋茂兵衛が板株購入。

127 多田清興 当世百歌仙 安政二年序刊 半紙本一冊

歌集

【序①】「安政二年五月／本居豊穎」【序②】「嬌こもる

屋上山下／金子杜とし誌」【跋】「安政二とせといふとしの弥生／多田清興」【刊記】「桃廼屋蔵板（捺印「桃廼

舎印）」（姓名録最終丁ウラ）【奥付】「発行書林 江戸英文蔵 和泉屋吉右衛門／京都 丸屋善兵衛／恵比須

屋市右衛門／大坂 秋田屋太右衛門／河内屋太助／芸州井筒屋忠八／若山 阪本屋大二郎／製本所 阪本屋喜一郎」。

【所見本】刈谷市村上。

128 西田惟恒 安政三年二百首 安政三年刊 中本一冊

歌集

【見返し】「西田惟恒大人編輯／安政三年二百首／紀伊若山 野田眉寿堂梓」【序①】「橘尚忠」【序②】「源繁里」【

告】「歴代遺文」「古器図録」計二丁【刊記】「書林 京寺町通錦小路上ル 恵比須屋市右衛門／大阪心斎橋通安堂

寺町 秋田屋太右衛門／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平河岸 阪本屋大二郎／敬白」（前掲広告②）最終

丁ウラ）【奥付】「能代大人編輯／類題和歌清渚集 初編近刻／書林 紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平

河岸 阪本屋大二郎／同 裏橋通 阪本屋源兵衛」。

【所見本】麗澤大田中。

129 千家尊孫 花のしつ枝 安政四年刊 中本一冊 歌集

【見返し】「(出雲国杵築／現存五十歌仙)／花のしつ枝／装巻所 南虞陽 迎歛堂」【序】「安政四年の春 堂山かけのおきなかしるす」【跋】「尾張乃殿人／市岡和雄いふ」【奥付】「出雲百歌仙 嗣出／安政四年丁巳正月／書肆 京都 恵美須屋市右衛門／江戸 山城屋佐兵衛／大阪心齋橋筋 河内屋茂兵衛／尾州名古屋 菱屋久八／雲州杵築 泉屋助右衛門」。

【所見本】大阪市大森。

130 西田惟恒 安政四年三百首 安政四年刊 中本一冊 歌集

【見返し】「西田惟恒大人編輯／安政四年三百首／紀伊若山 野田眉寿堂梓」【序①】「安政四年乃夏さ月乃くはゝれるにをりふしいとまをえて／周防佐渡郡にすめる／鈴木高輅／徳永秀信書」【序②】「五十君夷守」【廣告①】「名所歌集三編」ゝ「同三年(青山注)——安政三年(二)二百首」

(計六点、姓名録最終丁ウラ) 【廣告②】「歴代遺文」古器図録」計二丁 【刊記】「書林 京寺町通錦小路上ル 恵比須屋市右衛門／大阪心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平河岸 阪本屋大二郎／敬白」(前掲廣告②最終丁ウラ)。

【所見本】大阪市大森。

【諸本】奥付「能代大人編輯／類題和歌清渚集 初編近刻／書林 紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平河岸 阪本屋大二郎／同 裏橋通 阪本屋源兵衛」(架蔵)

131 物集高世 類題春草集 初編 安政四年序刊 中本二冊 類題集

【見返し】「物集高世大人編輯／類題春草集初編二冊／葎屋社中蔵板」【序①】「豊前国京都郡津積の里なる広幡八幡の皇神に仕奉る藤原朝臣直孝／三浦勝書」【序②】「安政四年霜月 西田直養／荒巻興讓書」【跋】「安政四年八月 葎の屋社中しるす／奥村孝之書」【廣告①】(姓名録の後に続けて同丁に)「物集高世大人編輯／近世長歌集 五冊 近刻／(物集高世大人編輯／西田惟恒大人校正) 類題春草集二編 近刻／(廣告文省略)／御詠草取次所

／江戸日本橋壱丁目 須原屋茂兵衛／京寺町蛸葉師下ル
 恵比須屋市右衛門／同東洞院二条上ル 田中屋治助／
 大坂心齋橋通北久宝寺町 敦賀屋彦七／同心齋橋通安堂
 寺町 秋田屋太右衛門」【広告②】「物集高世先生著述書
 目／（「本言考」）「類題和歌春草集」計二丁）／大坂
 心齋橋通安堂寺町 宋榮堂秋田屋太右衛門発兌」【奥付】
 「諸国発行書林 豊後杵築 肥後屋半兵衛／筑前博多
 多飛屋治助／肥後熊本 豊前屋太右衛門／薩州鹿兒嶋
 青木静左衛門／長州萩 山城屋彦八／芸州広島 井筒屋
 麗藏／備前岡山 中嶋屋益吉／播州姫路 灰屋輔二／紀
 州若山 坂本屋喜一郎／同 坂本屋大二郎／江戸 山城
 屋左兵衛／同 岡田屋嘉七／同 須原屋茂兵衛／京 田
 中屋治助／同 恵比須屋市右衛門／大坂 敦賀屋彦七／
 同 秋田屋太右衛門」。

【所見本】金沢市藤本。

132 西田惟恒 安政五年四百首 安政五年刊 中本一冊

歌集

【見返し】「西田惟恒大人編輯／安政五年四百首／紀伊
 若山 野田眉寿堂梓」【序①】「安政五年九月／肥後 小

山川蔭」【序②】「安政五年四百首のなれるを見て／高階
 古蔭」【広告①】「名所歌集三編」）「国学人物志」計八
 点（姓名録最終丁ウラ）【広告②】「類題和歌玉藻集」一
 丁【刊記】（広告②に続けて同丁ウラに）「類題和歌玉藻
 集」（二編全部／二冊宛）／（広告文省略）／御詠草取
 次所 京都寺町通錦小路上ル 城戸市右衛門／尾州名古
 屋本町通七丁目 永楽屋東四郎／紀州若山駿河町 阪本
 屋喜一郎／同所 昌平河岸 阪本屋大二郎／同所 阪本
 屋源兵衛」【奥付】「熊代大人編輯／類題和歌清渚集 初
 編近刻／書林 紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌
 平河岸 阪本屋大二郎／同 裏橋通 阪本屋源兵衛」
 【所見本】慶大。

▲133 文雄 磨光韻鏡 音韻

【記録】「京都他国版売出添章証文帳」安政五年十一月
 十六日、板元Ⅱ大坂伊丹屋善兵衛、売出人Ⅱ夷屋市右衛
 門。

恵比須屋の名が記された伝本は管見に入らず。売り
 弘めのみとの関与と推測される。

134 西田惟恒 安政六年五百首 安政六年刊 中本一冊

歌集

【見返し】「西田惟恒大人輯／五十君夷守大人校」／安政六年五百首／紀伊若山 野田眉寿堂梓【序①】「安政六年四月 藤原顕忠」【序②】「山本正周」【廣告①】「安政年々歌集」く「国学人物志二編」計九点（姓名録最終丁ウラ）【廣告②】「歴代遺文」「古器図録」計二丁【刊記】「書林 京寺町通錦小路上ル 恵比須屋市右衛門／大 阪心斎橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平河岸 阪本屋大二郎／敬白」
（前掲広告②最終丁ウラ）【奥付】「類題和歌玉藻集」（一編全部／二冊宛）／（廣告文省略）／御詠草取次所 京都寺町通錦小路上ル 城戸市右衛門／尾州名古屋本町通七丁目 永楽屋東四郎／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同所 昌平河岸 阪本屋大二郎／同所 阪本屋源兵衛。

【所見本】静岡県葵。

【諸本】後印本 前掲広告②・刊記・奥付がなく、替わりに別の奥付「能代大人編輯／類題和歌清渚集 初編近刻／書林 紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同 昌平河

岸 阪本屋大二郎／同 裏橋通 阪本屋源兵衛」を付す（大阪市大森）。

135 河本延之 可々楼年々百首 安政六年刊 半紙本二冊 歌集

【序】「河本延之」【刊記】「可々楼蔵板」【廣告】「可々楼年々百首」（自初編／至六編）合冊二本／後編年々嗣出」（刊記ウラ）【奥付】「書林 東都日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛／同 芝神明前 岡田屋嘉七／大阪心斎橋本町北江入町 河内屋和助／同 北久太郎町四丁目 河内屋新次郎／尾州名古屋本町一丁目 永楽屋東四郎／紀州若山 坂本屋喜一郎／平安寺町蛸葉師下ル 城戸市右衛門／同東洞院二条上ル 田中屋治助／安政六巳未九月再版」。

【所見本】内閣。

【諸本】後印本（文久三年） 初編から十一編までを二冊（一冊目 初編く五編、二冊目 六編く十一編）に合冊したもの。奥付は「安政六巳未九月再版」とある前掲のものを流用（慶大）。

【記録】〈京都小草紙証文帳〉慶応元年十月、田中屋治

助から、「半紙本私所持罷在候処、前書一字無相違三ツ切二此度彫刻致度」と行事に願ひ出た一札あり。

主板元は田中屋治助、内閣文庫本は、安政六年までに刊行された六篇を三篇ずつ上下に分けて合冊刊行したもの(中澤伸弘「可々樓年々百首のことども」『京古本や往来』八四号、一九九九年四月)。

136 高階惟昌 国学人物志 初篇 安政六年序刊 中本一冊 人名録

【見返し】「高階惟昌大人編輯／国学人物志 初編／発行書林 世寿堂」【序】「安政六年三月みやこ三條わたりにすめる堀尾氏恒／高階晴風書」【跋】「安政六とせ二月はかり／淡路国野嶋崎なる／高階惟昌」【広告①】「歴代遺文／古器図録／(広告文省略)／書林 京寺町通小路 上ル 恵比須屋市右衛門／大阪心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同昌平河岸 阪本屋大二郎敬白」(計二丁)【広告②】「類題和歌玉藻集／(広告文省略)／御詠草取次所 京都寺町通錦小路上ル 城戸市右衛門／尾州名古屋本町通七丁目 永楽屋東四郎／紀州若山駿河町 阪本屋喜一郎／同所昌平

河岸 阪本屋大二郎／同所 阪本屋源兵衛(計一丁)【奥付】(広告「類題和歌清渚集 二編嗣刻」)／安政五年午八月／南紀書林 阪本屋喜一郎／阪本屋大二郎／阪本屋源兵衛」。

【所見本】バークレー三井。

奥付は安政五年だが、同六年の序文を持つため、刊行はそれ以降である。

▲137 中島広足 しのすだれ 第四集 安政六年刊 大本一冊 歌集

【見返し】「中島広足翁詠／志能春多連(第四／集)／社中蔵」【序】「佐々木弘綱」【広告】「檀園大人著述目録／(「不知火考」)「窓乃小篠」計二十点」【奥付】「嘉永六年癸丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大助／大阪 田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同 豊前屋太右工門／長崎 小野左右助」。

未見。岡中正行『中島広足の研究』中巻(私家版、二〇一一年)による。刊年の推定も同氏による。奥付は114『しのすだれ』第二集の流用である由。

138 物集高世 類題春草集 二編 万延元年序刊 中本

二冊 類題集

【見返し】「物集高世大人編輯／類題春草集二編／豊後
杵築 葎屋社中蔵板」【序】「万延とあらたまりし年の七
月の末つかた中島田翁／しるす」【跋】「安政六年九月倉
来真幸しるす／後藤季秋書」【広告】（姓名録の後に続け
て同丁に）「春草集 三編 近刻／御詠草取次所／大坂
心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門」【奥付】「諸国発行
書林 豊後杵築 肥後屋半兵衛／筑前博多 多飛屋治助
／肥後熊本 豊前屋太右衛門／薩州鹿兒嶋 青木静左衛
門／長州萩 山城屋彦八／芸州広島 井筒屋麗蔵／備前
岡山 中嶋屋益吉／播州姫路 灰屋輔二／紀州若山 坂
本屋喜一郎／同 坂本屋大二郎／江戸 山城屋左兵衛／
同 岡田屋嘉七／同 須原屋茂兵衛／京 田中屋治助／
同 恵比須屋市右衛門／大坂 敦賀屋彦七／同 秋田屋
太右衛門」。

【所見本】金沢市藤本。

139 城戸千楯 雅言通載抄 文久元年刊 中本四冊 辞書

【序】「天保十三年六月八日／シミのむろやかにかきをへ
ぬ／城戸千たて」【奥付】「文久元年／九月刻／江戸
須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／大阪 敦賀屋九兵衛／秋
田屋太右衛門／河内屋喜兵衛／京都 蛭子屋市右衛門／
若山屋藤助／菱屋友七／大文字屋興三兵衛／吉野屋仁兵
衛／勝村伊兵衛／吉野屋甚助／林芳兵衛／錢屋惣四郎」。

【所見本】岩瀬。

【記録】《京都証文》安政五年五月／九月、錢屋宗四郎。

《藤井文政堂板木売買文書》文久元年十月十六日「此度

錢屋惣四郎殿方二板行致出来候」。《大坂出勤》文久二年
二月十四日「河喜呼掛、此間雅言通載抄、当地廻り先」。

《大坂出勤》文久二年五月二十日「河喜より、京取次雅
言通載抄添章引替申出候」。《大坂本渡帳》文久二年八月
廿日、河内屋喜兵衛。

140 山田梅東 四時遊人必得書 文久元年刊 半紙本三冊 詩学

【見返し】「文久辛酉新鑄／梅東先生会粹 全三冊／四
時遊人必得書／京撰 四書堂合梓」【序】「安政四年丁巳
農月乾坤無用人自題於京寓之隨宜染処」【奥付】「文久元

辛酉冬新板／発行書林 大阪 河内屋茂兵衛／林芳兵衛
／恵比須屋市右衛門／吉野屋甚助／京都 近江屋佐太郎
／勝村伊兵衛／勝村治右衛門／越後屋治兵衛。

【所見本】白鹿記念酒造博物館。

【記録】〈京都証文〉安政六年五月〜万延元年九月、越後屋次兵衛。〈大坂板木（文化）〉「京 相 河茂」。〈大坂出勤〉文久三年七月、「同人（※河内屋茂兵衛）より、四時遊人必得書、京越治より取次、添章引替願出、尤去年八月比申出候得共、若当地類書之物も無之歟調中彼是日延（中略）相合二付（後略）」〈大坂本渡帳〉文久三年七月五日、河内屋茂兵衛。

▲141 中島広足 しのすだれ 第六集 文久元年序刊

大本一冊 歌集

【見返し】「中島広足翁詠／志廻数堂連（第六／集）／社中蔵」【序①】「文久のはじめの年六月の望ばかり浪速なるふぢ原の利貞」【序②】「ゆきの屋のあるじ栄広文久元年みな月望の日」【広告】「樞園大人著述目録／（「不知火考」）「佐嘉日記」計三十点、一丁）」【奥付】「嘉永六年癸丑二月／書林 京 城戸市右工門／江戸 英大

助／大阪 田中太右工門／肥後熊本 珠数屋伝兵衛／同
豊前屋太右工門／長崎 小野左右助」。

未見。岡中正行『中島広足の研究』中巻（私家版、二〇一一年）による。奥付は114『しのすだれ』第二集の流用。

恵比須屋市右衛門による印刷年次不明分

142 富士谷成章 北辺七体七百首 天保三年以降求板（寛

政九年刊） 半紙本一冊 歌集

【奥付】「京都書林 寺町蛸薬師下儿町 城戸市右衛門」
【所見本】京都女子大吉沢。

【諸本】早印本① 〓 【跋】「寛政九年九月」、【刊記】（跋に続けて同丁に）「本塾蔵梓／皇都書肆 出雲寺文次郎／葛西市郎兵衛」、【広告】「水玉堂蔵板和歌連俳書目 京都寺町五條上儿町 天王寺屋市郎兵衛」（和歌夫木抄）
「鏝月扇」計二丁）（大阪市大森）。早印本② 〓 【刊記】（跋に続けて同丁に）「本塾蔵梓／皇都書肆 葛西嘉兵衛／出雲寺文次郎／葛西市郎兵衛」（パークレー三井）、

【早印本③】「見返し」北辺成章詠／七体七百首、【刊記】（跋に続けて同丁に）「本塾蔵梓」（書肆名が削除される）、【広告】（「万葉和歌集」く近世名家集類題）計〇・五丁）「和歌御書物所 京都三條通堺町 出雲寺松栢堂」（宇部市新井）。

天保三年に店舗を寺町蛸薬師下ルに移転した後の求板。

▲143 伴蒿蹊 訳文章諭 二冊

出版広告B「明学堂和書目録」（文化十二年頃）に記載あり。

▲144 貝原益軒 増補和字解 一冊

同右

▲145 古注百人一首増注 四冊

同右

▲146 古注枕草子傍註 五冊

同右

▲147 壺井義知 源氏物語男女装束抄 三冊

同右

▲148 八雲御抄 六冊

出版広告C「幸之倉和書目録」（文化十四年頃）に記

載あり。

▲149 栄雅読方和歌道しるべ 一冊

同右

▲150 官職難義 一冊

同右

▲151 河瀬菅雄 増補和歌道しるべ 四冊

同右

▲152 西田惟恒 歴代遺文 五冊

128『安政三年二百首』、130『安政四年三百首』、134『安政六年五百首』、136『国学人物志』の広告に記載あり。

▲153 西田惟恒 古器図録 五冊

同右

▲154 安藤為章 年山紀聞

〈大坂買板〉文久二年に恵比須屋から河内屋茂兵衛が板株購入。

附 鐔舎蔵板・製本書目

※⑤『鈴屋翁略年譜』のみ鐔舎による製本書。それ以外は鐔舎蔵板書。

① 長谷川普緒 奴豆能舍集（奴豆能舍長歌集）文化十四年刊 前掲34

② 藤井高尚 伊勢物語新釈 文政元年刊 前掲37

③ 藤井高尚 浅瀬のしるべ 文政二年刊 前掲39

④ 義門 友鏡 文政六年刊 前掲47

⑤ 伴信友 鈴屋翁略年譜 文政十二年刊 大本一冊
伝記

【序】文政十二年なか月廿日余り五月の日江戸の永田町乃旅やとりにして／村田春門しるす／代毫 桑原千足

【跋】「文政十二年己丑八月二十三日 本居大平」【奥付】

「文政十二年己丑九月／（刻印）「藤垣内蔵板於皇都鐸舎製之」。

【所見本】京都女子大吉沢。

⑥ 諸社奉納歌集 下鴨社之部 天保七年跋刊 半紙本
一冊 歌集

【識語】「天保六年乙未閏七月廿三日／社家鴨足伊予守」
（巻頭姓名録末尾）【序】「天保むとせといふとしきさ
らき／大江千楯／つゝしみて／まをす」【跋】「天保七年う
つきついたちの日 長谷川清秋」【奥付】「鐸舎社中蔵」。

【所見本】大阪市大森。

⑦ 城戸千楯 詠歌したためぶり 天保八年刊 一冊
歌学

【奥書】「天保八年丁酉初春 城戸千楯しるす」【刊記】

「鐸舎蔵板」（裏表紙に捺印）。

【所見本】京大文。

⑧ 諸社奉納歌集 上賀茂社之部 天保八年跋刊 半紙
本一冊 歌集

【識語】「天保六年乙未八月廿八日／社家当番」（巻頭姓名録末尾）【序】「天保き六つのとし卯花月にまたさきあ

へぬ橘の芳秀かまをす」【跋】「天保八とせといふとし／

きさらき 桂有彰」【奥付】「鐸舎社中蔵（捺印）「鐸舎之印」

【所見本】大阪市大森。

⑨ 諸社奉納歌集 梅宮社之部 天保九年跋刊 半紙本
一冊 歌集

【識語】「天保七年丙申三月四日／社家」（巻頭姓名録末尾）【序】「天保らけき七とせといふ年のはる風（中略）
稲羽のくに人畑中重稔」【奥書】「正四位下橘順福」【跋】
「しなのゝ国の水内郡の春雨にミかさまされる早川の真

学時は天保の九とせといふとしのきさらきのつこもりかたになむ」【奥付】「鐸舎社中蔵（捺印「鐸舎之印」）。

【所見本】大阪市大森。

⑩ 諸社奉納歌集 松尾社之部 天保九年跋刊 半紙本一冊 歌集

【識語】「天保六年乙未十一月十五日／社家当番」【序】

「天保六年九月 源周忠」【跋】「天保九年三月／和泉国

／尾崎正明」。

【所見本】大阪市大森。

奥付がなく、蔵板主は明記されていないが、他の『諸社奉納歌集』と同様に鐸舎社中の蔵板と考えるのが自然であろう。

⑪ 城戸千楯 民家敬神録 天保十一年刊 半紙本一冊 神道

【序】「ぬての屋にももの学ぶ忌部寛風」【奥書】「文政六年正月十五日 京御民 大江千楯謹記」【跋】「平野正祝

五位下大中臣富嗣」【刊記】「天保十一年庚子中冬／鐸舎

蔵」(跋ウラ)【書き込み】「嘉永四年辛亥文月／奉納／

願主寺町通錦小路上ル／城戸市右衛門／大江千楯」(裏

見返し)。

【所見本】北野天満宮。

⑫ 鈴屋翁真蹟縮図 嘉永三年刊 半紙本一冊 筆跡

【序】「本居宣長か五十年忌を大橋長広かいたなむとて予にも手向乃哥こひければ／正三位有功／(和歌省略)

／右 左馬大允源政韶／謹縮写」【奥付】「嘉永三年庚戌冬／皇都鐸舎蔵版」。

【所見本】東大國語本居。

⑬ 鈴屋大人五十回靈祭歌 嘉永三年序刊 半紙本一冊 歌集

【序①】「嘉永三とせといふとし五月／もとをりの内遠」

【序②】「長沢伴雄」【跋】「嘉永三年六月」【書袋】「鈴屋大人／五十回靈祭歌／皇都鐸舎蔵版」。

【所見本】射和。